

画 信 義 報

2005年度

講 義 計 画

桃山学院大学

圖

十

表

簿

科 目 名			
日本文化研究－柳田国男を再読する			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	梅 山 秀 幸

【講義概要・学習目標】

今世紀初頭、柳田国男は二度にわたって、かなりの長期の岐阜県の調査旅行を行っており、その成果は『山の人生』および『毛坊主考』といった初期の作品の中に取り入れられている。その足跡をたどりつつ、柳田国男の叙述を読みなおすとき、かなりの「創作」といっていいものが目立つ。たとえば、『山の人生』の冒頭の「西美濃」の山奥の子ども殺しは、その実行者の後年の告白がたまたま残されていて、それと付き合わせると、実に出鱈目である。また、飛騨白川郷での農家の軒先での見聞かあら、『毛坊主考』は書き始められ、浄土真宗の揺籃期について論じているのだが、白川郷は江戸初期に高山に移った照連寺が勢威をふるった真宗王国であった。柳田国男の「勇み足」の意味を考えながら、山国の人々の精神生活に思いを致したい。合わせて、柳田のさまざまな方面での業績を通して、その思想の現代にもつ意味を考えてみたい。

【講義計画】

- 1、『秋風帖』を読む
- 2、『越前美濃紀行』を読む
- 3、『山の人生』を読む
- 4、「新四郎さんの告白」
- 5、『毛坊主考』
- 6、一向一揆および真宗の発展について
- 7、飛騨というところ
- 8、飛騨の真宗
- 9、ネプタ考
- 10、人柱について

【成績評価の方法】

期末試験による。出席も考慮します。

【教科書】

なし

【参考文献】

『柳田国男全集』（ちくま文庫）

科 目 名			
日本文化史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	梅 山 秀 幸

【講義概要・学習目標】

桃山学院の近くの久保惣美術館には重要文化財の『伊勢物語絵巻』がある。その『伊勢物語』の中で高らかに称えられる「みやび」の美意識は「ひなび」との対比の上で成り立った美意識である。端的に言えば、それは都風の恋愛作法を意味するが、それが洗練されて『源氏物語』の「もののあはれ」となり、さらに深まり、爛熟して行き場のなくなって退廃していく姿を『問はずがたり』の中に見ていきたい。隣の朝鮮王朝にも宮廷文学はあったが、それは恋愛あるいは姦通を扱わない。主題は党争であり、「恨（ハン）」の世界が繰り広げられる。朝鮮の宮廷物語をも紹介しながら、日本の恋愛の文化的な意義を考えてみたい。

【講義計画】

- 1、久保惣美術館の『伊勢物語絵巻』
- 2、「みやび」と「ひなび」
- 3、宮廷風恋愛 (amour courtois)
- 4、『源氏物語』と姦通
- 5、「もののあはれ」
- 6、『大鏡』の「やまとだましる」
- 7、『問はずがたり』のモラルと関東武士の「妻敵討ち」
- 8、朝鮮宮廷小説
- 9、「恨（ハン）」と「もののあはれ」

【成績評価の方法】

期末試験による。出席も考慮します。

【教科書】

なし

【参考文献】

授業中に指示します。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、L・LE・LI生対象外

J生は博物館学芸員課程科目（随意）として履修

科 目 名			
日本文化論 [02生~] (旧日本文化研究—文学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

ナショナリズムには様々な側面から論じられるが、そのもっともソフトな形態として「文化ナショナリズム」がある。近代社会においては、日本に限らず、文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくということがなされるのだ。本講義では、その「文化としての日本主義」について、様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。扱う対象は主に戦後の日本社会で行われた「日本文化」についての様々な言説（いわゆる日本文化論）だが、前近代（江戸・中世・古代）へと適宜時代を遡らせて、世界でもまれに見る完璧な「国民国家」が創出されていく過程をたどることになるだろう。

【講義計画】

1. 『菊と刀』の前と後
2. オリエンタリズムについて
3. 対外関係の中での自己アイデンティティの創出過程(古代編)
4. 対外関係の中での自己アイデンティティの創出過程(中世編)
5. 戦後民主主義体制化の日本の自己アイデンティティ

【成績評価の方法】

2度行う試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

【教科書】

深沢徹著 『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）

【参考文献】

南博著『日本人論—明治から今日まで—』（岩波・1994）青木保『日本文化論の変容』（中央公論・1990）吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学』（名大出版・1997）

【備考】

E・SW・B・J生対象は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
人間工学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	三 戸 秀 樹

【講義概要・学習目標】

人間と機械のかかわりは古い。この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め、今後の人間と機械の関わり方について言及する。近年の機械系、とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう、人間らしい“人間—機械”の関係が実現しつつある反面、労働場面では、非人間的な“人間—機械”の関係が観察される。この非人間的側面は、かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている。さらに、一部では産業ストレス時代ともいわれ、真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が緊要である。単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく、働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を發しながら、「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を、人間工学的に考える姿勢を重視する。人間を中心にすえた視点から人間工学の基本を学びとって欲しい。なお、文科系受講生へ配慮して、数式をほとんど用いないで講じる工夫をしている。

【講義計画】

<前 期>

- (1) はじめに
人間工学の定義、労働態様の変化、
- (2) 人間特性

生体次元、感覚入力系、覚醒水準、生体リズム、反応特性、性差、疲労、蓄積性疲労、

<後 期>

- (3) 人間と機械
マン・マシン・インタフェース、頸肩腕障害、振動障害、VDT作業、テクノストレス、
- (4) 応用人間工学
立ち作業、障害者、二次的障害、高齢化、安全人間工学、交通科学、福祉人間工学、
- (5) 労働の快適化
労働の人間化、ゆとり、人間工学専門家資格、

【成績評価の方法】

テストとレポートを予定。

【教科書】

テキストは使用しない。
プリントを配布します。

【参考文献】

労働と健康の科学研究会（編）「労働と健康の科学」（労働経済社）
三戸秀樹ほか（著）「安全の行動科学」（学文社）
千田忠男ほか（著）「労働科学論入門」（北大路書房）
井上正康、倉恒弘彦、渡辺恭良（編）「疲労の科学」（講談社）

科 目 名			
人間発達論 (旧人格発達論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

人は、誕生してから自分の周りの環境との相互作用によって育っていく。以前は「発達」というと、乳幼児期から青年期までに焦点があてられていたが、現在は生涯発達という観点から、人が生まれてから(胎児期から)なくなるまでの変化として捉えられている。

身体的成長や運動能力、言語、認知、社会性など精神活動など、一口に発達といっても幅広い領域にまたがり、また、家族、社会、文化、時代など、多くの環境要因によっても変わってくる。そのため、これまで様々な視点から発達理論が唱えられてきた。

本講義では、発達理論を概観し、ライフステージにおける課題をみていき、人間理解を深めたい。さらに、福祉等の対人援助の仕事の視野にいれ、発達の支援について応用行動分析の立場から触れる。

【講義計画】

- 1 発達とは
 - ・人間の発達の概念
- 2 発達理論の理解
 - ・各理論の紹介と整理
- 3 発達における課題について
- 4 発達の支援
 - ・応用行動分析の立場から

【成績評価の方法】

出席状況、授業時の課題、レポート、学期末試験により、総合的に判断する。

【教科書】

授業時に提示する

【参考文献】

授業時に提示する

科 目 名			
ネットワーク実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	初 瀬 慎 一

【講義概要・学習目標】

近年、ネットワーク技術の進歩や、インターネット、イントラネットの普及によりコンピュータとネットワークは切り離せない物となった。また、インターネットの普及する中、膨大な資料の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本実習では、コンピュータネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、現状の問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を目指す。その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識をもってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【講義計画】

1. コンピュータネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. さまざまなネットワーク上のサービス
8. HTML、XML、JAVA
9. ネットワークの安全性
10. 現在のネットワークの問題点、解決策、セキュリティ
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

【成績評価の方法】

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

【教科書】

資料は講義時に配布する。

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』(日経BP社2002)

科 目 名			
ネットワーク実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2	中 崎 修 一

【講義概要・学習目標】

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すことのできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。

その利用の中で、ただ単に利用するだけでなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

【講義計画】

1. コンピュータ・ネットワークとは
2. LAN、インターネット、ネットワークの構築
3. ネットワークを活用した情報収集
4. ネットワーク技術の基礎
5. 通信プロトコル
6. インターネット詳細
7. 様々なネットワーク上のサービス、コミュニケーション
8. HTML、XML、JAVA
9. ネットワーク・セキュリティ
10. 現在のネットワークの問題点、解決策
11. 今後のネットワーク事情について
12. まとめ

【成績評価の方法】

課題提出、出席から総合的に判断する

【教科書】

資料はWebページにて提示

【参考文献】

長坂康史著『情報通信ネットワークとLAN 情報がひらく新しい世界』（共立出版）
ISBN4320029666

科 目 名			
ネットワーク論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	初 瀬 慎 一

【講義概要・学習目標】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴って、それらの技術を応用した新しいサービスが次々と生み出されている。また、ネットワーク構築・運用に関する知識はさまざまな分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に、現在及び今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、さらに新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

1. 情報通信ネットワークとは
2. インターネット
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. 安全性と信頼性
8. さまざまなサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情
12. まとめ

【成績評価の方法】

提出レポートの評価を中心に試験との総合評価を行う。出席は3分の2以上であること。

【教科書】

資料は講義時に配布する。

【参考文献】

戸根勤著『ネットワークはなぜつながるのか』（日経BP社2002）

科 目 名			
ネットワーク論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2	中 崎 修 一

【講義概要・学習目標】

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を活用した新しいサービスが次々と生み出されており、新しいコミュニケーション手段としても認知された。また、ネットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。また、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネスを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

【講義計画】

1. 現代社会とコミュニケーション手段の変化
2. 情報通信ネットワークとは
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. ネットワーク・セキュリティと信頼性
8. 様々なサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情について
12. まとめ

【成績評価の方法】

レポート課題、筆記試験、出席などから総合的に判断する

【教科書】

長坂康史著『情報通信ネットワークとLAN 情報がひらく新しい世界』（共立出版）
ISBN4320029666

【参考文献】

必要に応じて提示

科 目 名			
農業経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	浦 出 俊 和

【講義概要・学習目標】

GATT体制からWTO体制へ移り、農産物貿易の自由化が進んでいるが、わが国は、世界の中でも農産物輸入大国であり、年々自給率が低下している状況にある。WTO体制の下で、わが国はこのまま農産物輸入の拡大を進めてよいのであろうか？それとも農業保護をすべきなのであろうか？

本講義では、WTO体制下の農業問題を国際貿易の観点から取り上げ、先進国およびわが国の農業政策と問題について考察する。

農業経済論では、特にミクロ経済学の理論を援用するので、その知識が必要である。ゆえに、経済原論ⅠA-Ⅰを履修済みか、同時に履修していることが望ましい。本講義が目標とすることは、各自が農業の抱える問題を正しく認識し、その将来方向について自分の考えを述べる事が出来るようになることである。

【講義計画】

1. 世界の人口と食糧問題
2. 世界の農業問題
3. 農業の特質と農産物貿易問題
4. WTO農業協定の意義と評価
5. 先進国の農業政策
6. 日本の農業・農村の現状と課題
7. 日本の農業政策の展開
8. 食料主権と消費者主権
9. 農業と環境—持続可能な農業—

【成績評価の方法】

原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

【教科書】

特に指定しないが、講義概要や講義資料は、下記を参照のこと。
<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/agri-index.html>

【参考文献】

- 1) 速水佑次郎・神門善久著『農業経済論』（岩波書店）
- 2) 荏開津典生著『農業経済学』（岩波書店）
- 3) 矢口芳生著『WTO体制下の日本農業』（日本経済評論社）

科 目 名			
博物館概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

学芸員課程の基幹科目である。はじめの講義で学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的は何かについて、ガイダンスを行う。この講義では博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。また本講義においては学生諸君に博物館に行ってもらい、見学レポートを4月に1本、5月に1本の計2本書いて提出してもらう。その締め切りはそれぞれ4月末、5月末の予定である。見学レポートを提出しなかった者は本講義を放棄したものとみなすので、十分注意すること。

【講義計画】

1. 博物館の目的と機能
2. 博物館の歴史
3. 博物館の現状
4. 博物館倫理
5. 博物館関係法規
6. 生涯学習と博物館

【成績評価の方法】

出席を含む受講態度とレポート、及び試験で評価する。

【教科書】

広瀬隆人（編）『博物館学基礎資料』樹村房（2001）

【参考文献】

倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版（1997）その他適宜指示する。

科 目 名			
博物館学各論Ⅰ (旧博物館学各論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	水 口 薫

【講義概要・学習目標】

近年、博物館及び博物館相当施設が増え、社会におけるその機能、役割が注目されてきている。特に生涯学習、学校教育、研究活動において、その領域は拡大し、その必要性と相まって博物館への関心は高くなっている。新しい博物館像が模索される中でも、学芸員は博物館の基本機能である資料収集、保存、研究、教育・普及活動の知識と活用する能力が求められている。本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館資料論」を内容とする。

博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。
適時ビデオ資料を使用する。

【講義計画】

「博物館資料論」

1. 博物館とは何か 博物館資料の概念
2. 博物館資料の種類と特質
3. 博物館資料の収集・調査と整理
4. 博物館活動と資料情報
5. 博物館資料の取り扱い方と製作
6. 博物館資料の保存と劣化対策
7. 虫菌害と防除対策
8. 博物館資料の利用
9. 展示の実際1 展示と環境・条件
10. 展示の実際2 展示方法と照明
11. 展覧会の企画と開催
12. 博物館の危機管理と地震対策
13. 資料論からみた博物館
14. まとめ

【成績評価の方法】

出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点にて総合評価

【教科書】

「博物館ハンドブック」（雄山閣）加藤有次、椎名仙卓（編）
適時、プリントを配布。

【参考文献】

『博物館学教程』大堀哲編（東京堂出版）
『博物館学概説』網干善教編（関西大出版部）
その他、講義の時に提示する。

科 目 名			
博物館学各論Ⅱ (旧博物館学各論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	水 口 薫

【講義概要・学習目標】

近年ミュージアム・マネジメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性和相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネジメント感覚が求められている。

本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館経営論」「博物館情報論」を内容とする。

博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。

適時ビデオ資料を使用する。

【講義計画】

「博物館経営論」

1. 博物館の行財政
2. 博物館経営の理念と方法（ミュージアム・マネジメント）
3. 博物館の組織と職員及び施設・設備
4. 博物館と利用者、地域社会との関係
5. 博物館における教育普及活動の意義と方法
6. 博物館における市民参加とボランティア 博物館友の会・後援会

7. 博物館の出版活動

8. 博物館の広報活動

「博物館情報論」

9. 博物館における情報の意義
10. 博物館における情報提供と活用の方法
11. 博物館における情報機器とその利用
12. 情報発信機関としての博物館
13. 博物館の教育・普及活動における資料と情報

【成績評価の方法】

出席を兼ねた小テスト、レポート（適時）、定期試験と出席点にて総合評価

【教科書】

「博物館ハンドブック」（雄山閣） 加藤有次、椎名仙卓（編）
適時、プリントを配布。

【参考文献】

「ミュージアム・マネジメント 博物館運営の方法と実践」（東京堂出版）
大堀哲、小林達雄、端信行、諸岡博熊（編）
その他、講義の時に提示する。

科 目 名			
博物館実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8月集中	1	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

博物館資料の取り扱いや展示に関する基本的なことを学内、学外の施設で実習する。分野毎に専門の教員が担当して指導する。予定している実習は「土器の復元」、「考古遺物の実測」、「文書資料の取り扱い」等である。実習の内容については追って発表するので、注意すること。

【講義計画】

8月初旬に5日間連続で実施する予定である。詳細な日程については追って発表するので、注意すること。

【成績評価の方法】

全出席が原則である。主に実習ノートによって評価する。

【教科書】

なし。

【参考文献】

実習中に資料を配布する。

【備考】

インテグレーション科目

は
行

科 目 名			
博物館実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

多様な博物館の現状を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認を取る。土曜、日曜または休暇中に実施する。総計で12回実施するが、そのうち4回は両コース共通、8回は産業文化、東洋文化のコース別にそれぞれ4回である。尚、自分のコース外の館も見学することが望ましいことは言うまでもない。

【講義計画】

日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。

両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、大阪歴史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、国立民族学博物館。

産業文化コース：交通科学博物館、大阪ガス・ガス科学館、UCCコーヒー博物館、なにわの海の時空館。

東洋文化コース：和泉市久保惣記念美術館、堺市博物館、大阪城天守閣、大阪府立弥生文化博物館

【成績評価の方法】

主に実習ノートによって評価する。

【教科書】

なし。

【参考文献】

なし。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
博物館実習Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	1	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

指定した博物館で5日間から1週間程度の館務実習を行う。実習先の博物館としては、高野山霊宝館、和泉市いずみの国歴史館、トヨタ博物館、大阪ガス・ガス科学館、なにわの海の時空館、等を予定している。

【講義計画】

4月のガイダンス時に、各人の実習館を決定する。実習は多くの場合、夏期休暇中に行われるが具体的日時や実習内容は各博物館によって大幅に異なっており、同じ博物館でも年によって変更がある。

※各実習館への交通費・宿泊費等は自己負担であるので、注意すること。

【成績評価の方法】

実習館の評価と実習ノートによって評価する。

【教科書】

なし。

【参考文献】

なし。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
比較経済体制論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	上 野 勝 男

【講義概要・学習目標】

「ソ連（ロシア）の経済はどんなもの？」ときかれましたら、少し勉強した諸君なら次のように答えるだろうか。つまり、旧ソ連では企業活動の自由がなく、命令でがんに縛られ、消費者は選択の余地がなく、商品はいつも不足していた。こうした「社会主義計画経済」が行き詰まったためにソ連は崩壊して、いまでは「体制転換」という、「市場経済」＝資本主義のシステムへの移行がすすんでいるところだ、と。

たしかに「社会主義から資本主義への移行」というのはわかりやすい。でも、長引く不況、慢性的に高い失業率、就職難、金融不安という状況にあるわたしたちの国日本も「市場経済」＝資本主義だと思うと、少し考え込んでしまいませんか。「はたしてこんな矛盾を抱えた資本主義が旧ソ連の転換の模範になるのか？」と。それに、「社会主義は、本来、資本主義の矛盾を克服した体制のはずなのに、なぜソ連があんなふう崩壊したのか」、「崩壊したのは社会主義だったからなのか」等々。この講義では、こうした疑問をじっくり考えることを目標にして、(1) 社会主義とは本来どのようなものか、(2) わたしたちの生きる現代資本主義にとって社会主義はどのような意味をもつのか、(3) 旧ソ連の経済体制をどう考えるか、(4) ロシア・東欧諸国で進行する「体制転換」をどう考えるかをポイントにしてすすめます。

【講義計画】

序 論 「比較経済体制論」とは？

第I部 社会主義とは何か？

1. 資本主義の本性とその矛盾
2. 社会主義的将来の本質と発展
3. 現代資本主義と民主主義

第II部 ソ連経済史概説－「社会主義経済」だったのか？－

4. 十月革命からネップ（新経済政策）の試みへ
5. ソ連型経済制度の成立
6. ソ連経済の構造と矛盾

第III部 「体制転換」の虚像と実態

7. 「体制転換」の十余年
8. 未来はどこに

【成績評価の方法】

講義への出席をとくに重視します。試験・レポートなどとあわせて、総合的に成績を評価します。講義の進め方・評価方法を知る上で、第1回目の講義は必ず出席してください。

【教科書】

使用しません。プリント配布に注意してください。また、随時参考文献も指示します。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
比較社会論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	清 水 由 文

【講義概要・学習目標】

われわれは日常生活で比較という方法をとおして物事を考え、決定しています。社会学では比較の方法は歴史的方法と同じく重要な方法論の1つです。現在日本の社会は世界のグローバル化にある反面、その中にあっても日本社会は伝統的性格や独自性を持ちながら対応しています。そこで本講義ではまず日本に隣接している中国やタイの社会との比較をし、次にイギリス、アイルランド、アメリカ、カナダという欧米社会を比較の対象にしながら日本の社会の現代的特質を考えることを目的にしています。講義では社会全体を一面的に取り上げるのではなく、とくにわれわれの身近な家族や食風景を比較の対象に限定して検討していきたいと思う。出来るだけビデオなどを用いて視覚的に理解できるようにしていきたい。

【講義計画】

1. 比較社会の方法
2. 比較社会の枠組み
3. 日本の食と家族の特徴
4. 中国の食と家族の特徴
5. タイの食と家族の特徴
6. イギリスの食と家族の特徴
7. アイルランドの食と家族の特徴
8. アメリカの食と家族の特徴
9. カナダの食と家族の特徴

【成績評価の方法】

試験、講義中の小レポート（評価と出席点を含む）の総合評価

【教科書】

特に使用しないが、講義時に講義内容の資料を配布する。

【参考文献】

清水・菰淵編『変容する世界の家族』、ナカニシヤ出版。

は
行

科 目 名			
比較文化概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	小 林 信 彦

【講義概要・学習目標】

日本文化の特徴は何か。他の文化と違う点は何か。この問題に答えるためには他の文化と比べてみなければならない。そのための作業として、日本人が異文化をどのように受け取ったかを調べればよい。幸いにして日本には異文化圏から来た書物が数多く伝わっているが、この授業では特に仏教のものを取り上げる。

仏教文献を読んだ古代日本人の発言に着目し、これをインド文献の記述と比較することによって、日本文化とインド文化の決定的な違いを指摘する。

【講義計画】

まず基礎知識を確実に身につけさせるために、仏教について最も根本的な点を分かり易く説明する。次に古代の日本説話の中から話を一つ選んで、日本人が仏教をどう扱っているかを詳しく解説する。その上で、インド人と日本人の間で考え方の違いを理解させる。

【成績評価の方法】

- ①授業中の質問と発言を特に評価する。
- ②課題ごとに小試験を行い、折に触れて授業内容の要約を提出させる。
- ③学期の中間と学期末に試験を行う。

【教科書】

なし

【参考文献】

教室で扱う資料はそのつど複写で配布する。

科 目 名			
比較文化研究－アジアの宗教文学 (旧比較文化特講－アジアの宗教文学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	小 林 信 彦

【講義概要・学習目標】

目に見える文化事象は異文化圏から採り入れるのが容易であるが、人間の生き方を根本のところ規制する原則は、簡単に置き換えることができない。インドで作られた仏教文献は古代の中国に伝わり、さらには東南アジアにも伝わった。

受け入れ側の文化の違いを反映して、インド文献はそれぞれの国で非常に異なるものとなった。インドと中国と日本の宗教文献に加えて、インドネシアのバリ島に残っているものも取り上げたい。

【講義計画】

具体的な問題をいくつか取り上げて、インドの仏教に接した古代の中国人と日本人とバリ島人の反応に注目する。こうすることによって、それぞれの文化の独自性を学習させたい。

【成績評価の方法】

授業中の発言を特に評価する。
一つの課題を終えるごとに小試験を行い、折に触れて授業内容の要約を提出させる。

【教科書】

なし。

【参考文献】

教室で扱う資料はそのつど複写で配布する。

科 目 名			
比較文化研究－性と権力：東西史の裏街道 (旧比較文化特講－性と権力：東西史の裏街道)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley

【講義概要・学習目標】

ある国の「分度」を測るのもっとも手取り早い方法はその国に生きる女性たちの社会的・政治的地位を見ることだ、とだれかは言った。つまり、「性」と「権力」との間には切っても切れない関係がある。歴史を通してどこを見ても女性、ゲイ、あるいは形にはまらない性的アイデンティティを持つ人たちは甚だしい迫害を受けてきた。21世紀にこそこの悲しい歴史に終止符を打つならばその辛い現実を知る必要がある。

歴史教科所に登場しない歴史（名づけて「歴史の裏街道」）は実はもっとも生きていた歴史だ。この講義では「性と権力」と関連するいくつかの項目～魔女狩り、「フランケンシュタイン」、原子力爆弾など～に焦点を当て、現代にも長い影をかける「歴史から隠されてきた」問題に新しい光を投げかけ、我々の「性と権力」に対する認識を再検討してみたい。

「講義」とは言え、映画、音楽、テレビ番組などをフルに使い、真面目なテーマを取り扱いながらも十分楽しめる授業にしたい。しかし、ネックがある～使用する言語は英語だから。多くの受講生にとって初めての体験かもしれない。「難しい!」、「無理!」という声がいまにも聞こえてきているような気がする。しかし、通じない講義をやっても仕方がない(当然のこと)。どの学生も(その気になれば)聞き取れるように、ゆっくり話したり、キーワードを配ったりしてありとあらゆる工夫をする。安心して受講してください。ただし、ヒアリングを磨くための授業だから毎回出席するつもりで受講してください。

【講義計画】

講義のテーマ「性と権力」に関連するエピソードをそれぞれの地域（欧米、中国、日本）から順番に紹介する。

【成績評価の方法】

英語ヒアリング能力を磨くため毎回出席が大前提。そのほかに提出物もあり、期末テストを行う。

【教科書】

なし

【参考文献】

キーワードやイラストを含むプリントを毎回配る。

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
比較文化研究－子供：東西史の隠れ担い手 (旧比較文化特講－子供：東西史の隠れ担い手)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	フィリップ ビリングズリー Philip Billingsley

【講義概要・学習目標】

子供は普段、歴史教科書に登場しない。新聞にも「問題」を起こしたとき以外はあまり見えてこない。最近になってようやく虐待などから守られる権利を勝ち取ったとはいえ、子供には社会を動かす力は皆無に近い。学校で子供が体罰を受けても社会は知らん振りをしてきたが、大人だった場合加害者は逮捕されるだろう。意見を強く訴えると「生意気」と言われ、校則に従わないと罰される、登校しないと「問題児」扱いされるのは子供の日常である。しかし、こうして無視されがちなこどもは実はどこの社会においてももっとも期待される存在、現在と未来をつなぎ合わせる貴重な存在である。

この講義では、こどもの目を通してヨーロッパ、中国、そして日本の文化を見つめることにしたい。「大英帝国」・「大日本帝国」それぞれの名においての「国民教育」に抵抗する19世紀イギリスと日本のこどもたち、「文化大革命」のとき「革命路線」を守るために学校から抜き出された中国の紅衛兵たちなど、様々なケースにおいて、文学、日記、ポスター、絵画などを使ってその時代を生き抜くために苦境に追いやられた子供の現実が伝わるよう努めるつもり。

「講義」とは言え、映画、音楽、テレビ番組などをフルに使い、真面目なテーマを取り扱いながらも十分楽しめる授業にしたい。しかし、ネックがある～使用する言語は英語だから。多くの受講生にとって初めての体験かもしれない。「難しい!」、「無理!」という声がいまにも聞こえてきているような気がする。しかし、通じない講義をやっても仕方がない(当然のこと)。どの学生も(その気になれば)聞き取れるように、ゆっくり話したり、キーワードを配ったりしてありとあらゆる工夫をする。安心して受講してください。ただし、ヒアリングを磨くための授業だから毎回出席するつもりで受講してください。

【講義計画】

それぞれの地域（欧米・中国・日本）の歴史にた子供たちが主役を演じたエピソードを順番に紹介する。

【成績評価の方法】

英語ヒアリング能力を磨くため毎回出席が大前提。そのほかに提出物もあり、期末にテストを行う。

【教科書】

なし

【参考文献】

キーワードやイラストを含んだプリントを毎回配る。

【備考】

英語による授業科目

は
行

科 目 名			
比較文化研究－世界の多様なメディア (旧比較文化特講－世界の多様なメディア)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	小 池 誠

【講義概要・学習目標】

この講義の目的は世界の多様なメディアを取り上げて、ふだん身近に接している日本のメディアとの比較を通して、世界の多様なメディアについて学ぶことである。とくにメディアとそれを創りだす社会・文化との関係について考えたい。また、グローバリゼーションが進む現代世界におけるメディアの変容についても考えてみたい。

この授業では、ふだん目にするものない海外の映画（インド映画・インドネシア映画など）とテレビ番組（カタール・オランダなど）だけでなく、身近な日本の海外文化紹介番組も取り上げて、さまざまな角度からメディアにアプローチしたい。

テレビ番組と映画をただぼんやりと見るのではなく、それぞれの歴史的・社会的・文化的な背景を考えながら、メディアを批判的・分析的に見る目、すなわちメディア・リテラシーを受講者は身につけてもらいたい。

【講義計画】

- 1 メディア・リテラシーとは何か？
- 2 メディアと戦争：アメリカとアラブのテレビ・ニュース
- 3 異文化の表象：日本のメディアは「海外」をどのように描くか？
- 4 メディアのグローバル化：日本製アニメの海外進出
- 5 映画の比較研究：インド映画はハリウッド映画とどう違うか？
- 6 世界のメロドラマ：韓国とインドネシアのドラマ
- 7 世界のテレビ放送
- 8 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の成績をもとにして評価する。また、出席点と、必要に応じて提出を求める小レポートの内容も加味して成績をつける。

【教科書】

なし

【参考文献】

講義のなかで必要に応じて紹介する。

科 目 名			
比較文化研究－彫刻の世界 (旧比較文化特講－彫刻の世界)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

すべての観察は比較ということの上で成り立っている。比較ということは、その座標として、比較が行われるための一定のカテゴリーを前提とする。この講義では、エジプト、ギリシア、インド、東アジアなどにおける彫刻の特徴を概述し、比較芸術学の方法を明らかにしたい。

【講義計画】

1. 比較芸術学の課題と研究領域
2. エジプトの彫刻
3. ギリシアの彫刻
4. ローマの彫刻
5. 仏像に関する諸問題
6. 彫刻の素材

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

【参考文献】

- 『近代芸術学の成立と課題』吉岡健二郎著、創文社
『芸術の世界』井島勉編、創文社
『原色 日本美術』小学館
『中国美術全集・彫塑編』人民美術出版社

科 目 名			
比較文明論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	串 田 久 治

【講義概要・学習目標】

二十世紀後半、西欧文明を見直して非西欧文明の価値を組み込む新しい関係概念と望ましい方向性を探求しようと、ヨーロッパに「比較文明」が誕生しました。知の総合を旨とする新しい学問です。

一方、西欧文明の普遍的価値を信じていたアジア諸国は、それが必ずしも世界に普遍的価値ではないことを知り、ようやくアジア独自の文明・文化の価値観に目を向け始めました。そして、2001年、国連はこの年を「文明間の対話年」とし、二十一世紀の第一ページを飾ったのです。

ところが現実世界は今なお「文明間の対立」が深く、それは今後ますます激化するであろうと予測する研究者もいます。

本講義は世界の文明・文化を単に「比較」して「普遍的な文化」を求めるものではありません。古代中国文明が提起する様々な問題（講義で紹介する）を足がかりにして、「人間の普遍性」を共に考える授業です。したがって、ただ聞いているだけの、黒板との一方通行の講義ではなく、学生諸君のプレゼンテーションとディスカッションなどによって、学生諸君が主体となる授業です。

【講義計画】

第一部 比較文明序説

1. The Perfect European should be……
2. 「スイカ」は何語？
3. 中華思想とユニラテラリズム
4. 異文化・多文化ー「無用の用」

第二部 「人間の普遍性」を求めて

1. あなたにとって「家族」とは？
2. あなたに復讐心はありませんか？
3. あなたは結婚にどのような条件をつけますか？
4. あなたはどのような場合に離婚を決意しますか？
5. あなたは理念と現実とのギャップに苦しんだことがありますか？

【成績評価の方法】

出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価する。なお、レポートに関しては毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失う。

【教科書】

串田久治著『儒教の知恵ー矛盾の中に生きる』（中公新書）定価760円

【参考文献】

- ・KUSHIDA'S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>
- ・今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）
- ・ユルゲン・ハーバーマース著『法と正義のディスクール』（未来社）
- ・青木保著『異文化理解』（岩波新書）
- ・青木保著『多文化世界』（岩波新書）
- ・藤原一著『デモクラシーの帝国』（岩波新書）
- ・ノーム・チョムスキー著『メディア・コントロール』（集英社新書）
- ・梅棹忠夫著『文明の生態史観』（中公文庫）
- ・森谷正規著『文明の技術史観』（中公新書）
- ・サミュエル・ハンチントン著『文明の衝突』（集英社）
- ・伊東俊太郎『比較文明』（東京大学出版会）

【備考】

<02~04生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
ビジネス英語 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	和 田 肇

【講義概要・学習目標】

今後、国際ビジネスマンになるための必須条件としてパソコンと世界の主流語である英語を駆使する能力が考えられます。

英語を学習するにあたり、文法、単語といったハードウェアの重要性もさることながら、その言語が使用されている国の文化と人々の物の考え方を知ることつまりソフトウェアも理解しておくことが併せて大事です。

将来、学生諸君がアメリカへ留学、駐在される際に、事前に日米の企業文化を理解しておくこと、不要なトラブルに巻き込まれずに、楽しい海外生活が過ごせます。

私の海外勤務経験（米国、東南アジア）をもとに、企業の成功、失敗の実例についても説明します。

教材としては、英字新聞、英文雑誌などを使い、記事の解説と同時に、文法、同義語、反意語、熟語にもふれていきます。英語と日本語の新聞を読むのが好きな人の参加を期待します。

【講義計画】

(前期)

1. ビザ（査証）の取得方法
2. 自動車免許の取得方法
3. 銀行口座の開設方法
4. クレジットカードの取得方法
5. 米国での支店、現地法人の設立方法
6. 不動産購入方法
7. 米国人採用時の注意事項
8. セクシュアルハラスメント
9. 製造物責任（PL）
10. 集団訴訟
11. 時事問題
12. 時事問題

(後期)

13. 弁護士の利用
14. 企業買収（M&A）
15. 株主代表訴訟
16. 取締役責任
17. 集団訴訟
18. ベンチャービジネス
19. 人種差別
20. 離婚
21. 大統領選挙方法
22. 銃規制
23. 時事問題
24. 時事問題

(注) 年間を通じ、時機を得た時事問題を織り込む。

【成績評価の方法】

前期、後期のレポート内容と出席状況に基づき総合的に評価を行う。

語学習得には、根気と知的好奇心が必要です。

【教科書】

不要（当方にてプリントします）

【参考文献】

英文記事の読み方 日本経済新聞社編／日経文庫
新コンサイス時事英語辞典 三省堂／磯部薫

【備考】

<98~01生>

経済学部生対象

は
行

科 目 名			
ビジネス情報利用 (旧プログラミング論B)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	榎 本 光 世
02	春学期	2	

【講義概要・学習目標】

インターネットやワープロの普及によって職場でも家庭でもPCは日常的に利用され、必須の道具となった。本講は実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方からはじめ、中級レベルまでのスキルを得ることを目指す。

1. Windowsやパソコンの基本的な操作を習得する。
2. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの一般的なアプリケーションの簡単な使用方法を習得する。

【講義計画】

1. 講義概要
 2. パソコンの仕組みとWindowsの使い方
 3. Internet Explorerの簡単な使い方(その1)
 4. Internet Explorerの簡単な使い方(その2)
 5. Wordの基本(その1)
 6. Wordの基本(その2)
 7. Wordの基本(その2)
 8. Excelの基本(その1)
 9. Excelの基本(その2)
 10. PowerPointの基本(その1)
 11. PowerPointの基本(その2)
- 以上の内容は変更されることもある。

【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

【教科書】

桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』を毎時間必ず持ってくる。

【参考文献】

未定、開講時に指示する。

科 目 名			
ビジネス情報利用 (旧プログラミング論B)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2	大 嶋 耕 一
04	春学期	2	

【講義概要・学習目標】

かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。

内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、データの加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。

なお、入門的な内容を基本として授業計画を立てている（下を参照）が、学生個々の学習履歴（例えば「ワープロは基本的な内容を習得している」など）に応じて、多少のアレンジはできるように配慮する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス、テキストエディタを使ったキーボード操作
- 第2回 ファイルとフォルダの扱い、編集、クリップボードを利用した編集処理
- 第3回 ワープロ入門(1)…文書の書式設定と基本的な文字属性
- 第4回 Network入門(1)…LANとインターネット、E-mailの使い方
- 第5回 ワープロ入門(2)…作表、レイアウト、ビジネス文書
- 第6回 Network入門(2)…WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
- 第7回 表計算入門(1)…文字・数値・式の入力、セルのコピー
- 第8回 表計算入門(2)…表の体裁を整える
- 第9回 グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
- 第10回 クリップボードの仕組みとその活用
- 第11回～ 総合演習

【成績評価の方法】

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。

【教科書】

必要な資料は、授業時にプリントで配布する。ただし、桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておき、授業時には毎回持参すること。

【参考文献】

授業時に紹介する。

科 目 名			
福祉科教育法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

高齢化社会が進展する今日、社会福祉の役割は多様化し増大しつつある。そのことに伴って、社会福祉についての基本的認識を深め、適切な福祉サービスを提供するための基本的な知識・技術を高めることが広く期待されている。さらに、多様化する社会福祉の課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与しうる人材の育成は重要な課題でもある。高等学校福祉科の教育目標、内容、指導法について系統的に理解し、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に修得する。

授業の形態は、講義、演習、模擬授業等を組み合わせて展開する。

【講義計画】

〈春学期〉

1. 福祉科教育の意義
2. 福祉科の学習指導
3. 福祉科の教育課程
4. 福祉科の教材研究と評価
5. 福祉科授業の方法と社会福祉の理解

〈秋学期〉

1. 福祉科教育法の実際 1
2. 福祉科教育法の実際 2
3. 福祉教育の歴史
4. 福祉科教諭の資質

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。

【教科書】

硯川真旬・佐藤豊道・柿本誠 編著『福祉科教育法』 ミネルヴァ書房

【参考文献】

授業中に、適宜紹介する。

科 目 名			
福祉事情研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	梓 川 一

【講義概要・学習目標】

1. 生きることを感じあい、考えあえる講義を目指す。
2. 人間や社会についてテーマを設定して、広く深く考察する。
3. ディスカッション、ディベート、ロールプレイなども行う。

【講義計画】

1. 生活史（障害者や難病者の事例）
2. 沈黙の意味
3. 障害をもつこと（障害者や患者の権利）
4. 社会福祉の理論
5. 偏見と差別
6. 自己決定
7. 障害者と性
8. 医療福祉の実践
9. 語りと傾聴
10. 死の準備教育
11. 遊びの意味
12. 人間の価値

【成績評価の方法】

1. 講義の出席と主体的な姿勢
2. 講義中のレポートとテスト
3. レポート（課題は講義中に説明する）
4. 評価は厳密に客観的に行う（評価方法は講義で説明する）

【教科書】

牧洋子他編著『医療福祉論』せせらぎ出版、2005年。

は
行

科 目 名			
フランス語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	一ノ瀬 真 美

【講義概要・学習目標】

はじめてフランス語を学ぶ学生を対象に、平易で自然な会話文を通してフランス語のしくみをきちんと理解し、一年間で基礎をしっかりと身に付けることを目指します。授業ではテキストを読んで理解するだけでなく、テープを活用して耳と口を使ってもフランス語になじむこととなります。また、学んだ文法事項については必ず応用練習をしますので、実習のつもりで積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書は必ず持参すること。

【講義計画】

最初の授業ではフランス語の発音練習をおこない、その後は以下に示す文法事項を教科書に出てくる順で習得していきます。

1. 名詞の性と数；不定冠詞；定冠詞；部分冠詞
2. ETRE, AVOIR, 第一群規則動詞、その他の主な動詞の直説法現在
3. 否定形；命令形；疑問文
4. 形容詞の一致；指示形容詞；疑問形容詞；所有形容詞
5. 前置詞と定冠詞の結合
6. 補語人称代名詞；人称代名詞強勢形；代名動詞
7. 複合過去；近接過去；近接未来

【成績評価の方法】

前期と学年末の定期試験と授業中の小テスト、課題などの平常点で総合的に評価します。

【教科書】

中村栄子、石橋美恵子、藤岡かつよ 共著「新ア・ラ・フランセーズ」(白水社)

【参考文献】

辞書については最初の授業で指示します。

科 目 名			
フランス語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	〈春〉アニー ヤマサキ 〈秋〉高塚 桂子

【講義概要・学習目標】

会話的スケッチ文を読みながら、正しい発音、文法、動詞活用などに注意しながら、今の、生きた、正しい口語表現を学習します。さらに簡単な構文を用い、実用的表現も、知的な内容のある表現もできるように、口頭や筆記による練習を、積極的に行います。

【講義計画】

会話表現として、絶対必要な文法を最低限学習します。とくに、動詞の現在形と、それを中心としたフレーズの色々なパターンを用いて、様々な有用な日常表現が可能であることが、分かるばかりでなく、発信できる授業をします。毎回の小テストは、スケッチ文の一部と動詞活用の暗記が中心です。会話の練習法も、教師からのフランス語による質問に学生がフランス語で答えるという一方通行ではなく、学生の方からも、用意してきたことをフランス語で質問し、教師もフランス語で答える、という相互形式で授業をすすめます。

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末試験で評価します。毎回、小テストや小レポートを行います。

【教科書】

プリントを使用。

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』(三省堂)

科 目 名			
フランス語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	本 多 雄一郎

【講義概要・学習目標】

この授業では、フランス語の「話す」「聞く」という面に重点をおき、それに必要な基礎的な文法を踏まえながら、ビデオ教材を併用して口頭による会話表現の訓練を続けていく。そしてフランス語の基本的な運用力を養成していく。

【講義計画】

<前期>四月中は主に発音練習を行うが、それと同時に挨拶ややさしい自己紹介などの表現を覚えて、フランス語の感覚を身につけていく。又ビデオ教材では単語の読み方や言葉の聞き取り練習も行う。五月以降は、テキストに紹介されている基本的な表現を中心に様々なシチュエーションにおける会話を学んでいく。

<後期>自分や他の人の紹介に加えて、日常生活を表現したり、自分の意見の表現方法や相手に質問したり、多様な練習を行っていく。

【成績評価の方法】

前期・後期試験と平常点（小テストや授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】

『サリュ！』田辺保子他著 駿河台出版社

科 目 名			
フランス語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	エディ バンドロム Eddy L. Van Drom

【講義概要・学習目標】

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

最も大切なのはクラスの人たちと実際にコミュニケーション活動をする事です。たくさんの異なる相手と共同作業をすることによって、さまざまなコミュニケーションの状況に対応する訓練ができます。

ことばがつかえるようになるためには、どんどん使ってみることが一番です。

今年の教科書ではたくさんのフランス語に接し、たくさん話したり書いたりします。

【講義計画】

1. Dans la rue
2. Au café
3. Dans une classe
4. A la gare
5. A la cafétéria
6. Au restaurant universitaire
7. Le cinéma
8. Le diner
9. Chez Pierre et Jacqueline
10. Dans une petit bistrot
11. Entre deux cours
12. Dans le jardin
13. A la poste
14. Au téléphone
15. A l'agence de voyage
16. Sur le campus

【成績評価の方法】

1. 評価方法は前後の試験（1／3＋1／3）及び 出席／平常点（1／3）の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

【教科書】

1. 授業時は仏日辞書を必携のこと
(例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais—Francais ROYAL—OBUNSHA—2001)
2. "Le francais au quotidien", Numata-Matsumura—Yonetani—Van Drom, Editions ASAHI, 2005

は
行

科 目 名			
フランス語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	一ノ瀬 真 美

【講義概要・学習目標】

既にフランス語Ⅰでフランス語の初歩を学んだ学生を対象に、様々な、バラエティに富んだテキストを通して、読む・聞く・話す・書くという総合的なフランス語の運用力を養うことを目指します。積極的な姿勢で授業に臨むことが要求されます。理解できないことは授業中に質問してその場で解決しましょう。なお、辞書は必ず持参すること。

【講義計画】

既に学んだ事項を必要に応じて復習しながら、以下に挙げる文法事項を中心に習得していきます。

1. 指示代名詞；所有代名詞；関係代名詞
2. 中性代名詞；副詞的代名詞
3. 単純未来；前未来；半過去；大過去
4. 条件法現在；条件法過去
5. 接続法現在；接続法過去
6. 等位節；様々な従属節；間接疑問
7. 不定詞の複合形；現在分詞の複合形

【成績評価の方法】

前期と学年末の定期試験と授業中の小テスト、課題などの平常点で総合的に評価します。

【教科書】

中村敦子、加藤行男 共著「クリック！クリケ！2年目のフランス語」（第三書房）

【参考文献】

辞書については最初の授業で指示します。

科 目 名			
フランス語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	〈春〉アニー ヤマサキ 〈秋〉高塚 桂子

【講義概要・学習目標】

勉強の仕方は一年目と同じですが、普通のフランス人が、今、読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章をあつめ、その内容を理解しながら、それらに関して、会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

【講義計画】

現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるように、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み、書き、会話に必要で、役立つ範囲にひろげて学習します。辞書は、つねにクラスに持参すること。

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末試験で評価します。毎回、小テストや小レポートを行います。

【教科書】

プリントを使用。

【参考文献】

『クラウン仏和辞典』三省堂

科 目 名			
フランス語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	本 多 雄一郎

【講義概要・学習目標】

この授業では、フランス語Ⅰで学んだ基本的な文法の続きを学ぶことで、フランス語の全体像を把握していくとともに、より広範な運用力を身につけることを目的とする。なお授業中の作業のために辞書を必ず携帯すること。

【講義計画】

〈前期〉フランス語Ⅰで学んだ事柄を確実なものにするために今一度基本的な表現を復習し、その後はテキストやプリントに沿いながら「話す」「聞く」訓練を通して過去や未来などのより高度な表現を習得していく。

〈後期〉前期に引き続き、様々な表現に必要な特殊構文、動詞の活用などを学んでいく。さらにそれらの項目を含んだ文章を読んで理解したり、内容について質問したり答えたりすることで更なるフランス語力の向上を目指す。

【成績評価の方法】

前期・後期試験と平常点（小テストや授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】

『彼女は食いしん坊！2』藤田裕二著 朝日出版社

科 目 名			
フランス語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	エディ バンドロム Eddy L. Van Drom

【講義概要・学習目標】

フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。

やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

【講義計画】

1. Faire connaissance
2. Commander à domicile
3. Le cinéma
4. Faire son marché
5. Etre malade
6. Partir en vacances
7. Chez le coiffeur
8. Faire des courses
9. Le logement
10. Le mariage

【成績評価の方法】

1. 評価方法は前後の試験（1/3 + 1/3）及び 出席/平常点（1/3）の総合評価とする
2. 小テストの成績を総合的に評価する

【教科書】

1. 授業時は仏日辞書を必携のこと
（例えばDictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais - Francais ROYAL - OBUNSHA - 2001）
2. "Picoti Picota 2", M-E Muramatsu, Editions SURUGADAI, 2005

は
行

科 目 名			
プログラミング (旧プログラミング論A)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	榎 本 光 世
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

Visual Basic (以下VB) はソフトウェア統合開発環境で、これを本講の実習に用いる。今日、入手しやすいプログラミング言語の中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、より複雑で、大部分異なる。

本講は講義形式ではなく実習形式で行われる。体系的な知識を修得することよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることに重点が置かれ、同時に創意工夫を凝らすことが求められる。この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないので習得してから臨むこと。

学習目標は、プログラミングを体験しながら初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

【講義計画】

1. 講義概要と受講上の注意
2. VB事始め
3. コマンドボタンとPRINT文の詳細
4. 算術演算
5. キーボードからのデータの受け取り
6. 条件分岐 (その1)
7. 条件分岐 (その2)
8. 繰り返し処理 (その1)
9. 繰り返し処理 (その2)
10. 変数の配列

11. 自由課題プログラムのプレビュー

以上の内容は変更される場合もありうる。

【成績評価の方法】

出席率、宿題の提出率、自由課題プログラム、受講態度などによって総合的に評価する。

【教科書】

毎時間プリントを配布するので、バインダーのようなものを各自用意すること。

【参考文献】

未定、開講時に指示する。

科 目 名			
プログラミング (旧プログラミング論A)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2	大 嶋 耕 一
04	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

プログラミング言語にはさまざまなものがあり、適材適所で使用されている。本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

BASIC言語といえば、Windows環境ではVisual Basicが最も有名である。これは、JISで規定されているBASIC言語をMicrosoft社が独自に言語拡張し、オブジェクト指向という高度なプログラミング理論を取り入れ、Windows環境に適合させたものである。とはいえ、プログラミング環境を工夫してあるため、オブジェクト指向を特に意識せずにプログラミングができるようになっている。その反面、初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義では Visual Basicを用いることにするが、以上の点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

【講義計画】

第1回 ガイダンス、BASIC言語とは

第2回以後 (自修方式)

必須修得内容 (進度順)

以下は、全員が学習し、指示された提出物を提出する。

1. Visual Basicによるプログラム作成の実例
処理系の起動・終了、簡単なインターフェースの設計
2. 書式、変数と代入ステートメント、
オブジェクトとプロパティ
3. 文字列、式の表現 (演算子・関数)、
ステートメントの実行順序
4. プログラムのコンパイル、
実行可能プログラムとショートカット
5. プログラムと制御構造
選択構造 (ifステートメント)、
反復構造 (whileステートメント)

追加修得内容 (以下は、進度に応じて追加的に学習する)

6. 問題解決のためのアルゴリズム
7. ファイル入出力、サブプログラム

【成績評価の方法】

出席 30%、レポート・提出物 70% で評価する。
(試験は実施しません)

【教科書】

市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。

【参考文献】

ステップバイステップで学ぶには、

河西 朝雄「Visual Basic 6.0 入門編」, 技術評論社, 1999
参照用には、
相沢文雄「Visual Basic 6.0 リファレンスブック」,
ナツメ社, 1999

科 目 名			
文学－西洋Ⅰ (旧文学概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	国 松 夏 紀

【講義概要・学習目標】

ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与え返していますし、そういった事情はロシアに限らないからです。ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊富なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。

【講義計画】

便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。

- I. ヨーロッパ文学の源泉
- II. ルネッサンス (14、15、16世紀)
- III. 古典主義 (17～18世紀)
- IV. 啓蒙主義 (18世紀)
- V. ロマン主義 (18～19世紀)
- VI. リアリズム (19～20世紀)
- VII. 象徴主義と《世紀末》
- VIII. 《両大戦間》・20世紀

各項につき、3～4講の予定。ただし、講義の流れに応じて、若干の計画変更はあり得ます。

【成績評価の方法】

秋学期末レポートにより評価します。1回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

【教科書】

特に定めません。

【参考文献】

ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることになります。

【備考】

<02～05生>

共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
文学－西洋Ⅲ (旧西洋文学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	高 田 里 恵 子

【講義概要・学習目標】

この講義ではドイツ近代文学・現代文学・映像文化の主要な作品を取りあげながら、文学史や文学理論の基本的な知識を獲得し、また作品の読み解きの方法、理論的文章の書き方や考え方を学ぶことを目的とする。この授業をきっかけにして、読書の楽しみ・文章を書くことの喜びをぜひ知ってもらいたいと願っている。ドイツ文学の作品は、映像化されているものも多いので、何本かのビデオ作品を見る予定である。

【講義計画】

1. 「文学」はいつ誕生したか
2. バロック時代の世界観
3. ゲーテの『若きヴェルターへの悩み』について
4. 1900年前後の文学
5. ナチスは戦後どのように描かれたか

【成績評価の方法】

最後に学期末試験を行なう。また状況によっては、理解度を見るために、レポートか小テストを課すこともありうる。試験やレポートでは、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

【備考】

<02～05生>

共通教養科目として、J生対象外

は
行

科 目 名			
文学－日本Ⅱ (旧日本古典文学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

「平安文学」は、主に女性によって書かれたことで知られている。世界の文学の歴史からすると極めて異例である。なぜこの当時、女性が「文学」をも含めた文化活動の主導権を握ったのか。その事情を、当時の東アジアの国際情勢の中での日本の文化的な位置付けとからめて明らかにしていきたい。当時の日本は中国との関係の中で、ジェンダーとしての<女>に自らを位置付けて、文化的なアイデンティティ形成を行った。また「平安文学」の特権化は、第二次大戦後の日本社会と対応して、後から「創造された伝統」(ポップボーム)なのである。そこではアメリカとの関係の中で、自らを<女>のジェンダーに位置づけようとする政治的な力学が働いていた。そうした事情を歴史社会的に跡づけていきたい。

【講義計画】

1. 水村美苗著『私小説』と『本格小説』の日本の特質
2. 自己言及テキストとしての私小説と日記文学
3. 自己言及テキストとしての源氏物語
4. 新古今時代の文化概念と天台本覚思想
5. 仮名文の無根拠性と文字の物神化

【成績評価の方法】

2度の教場試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。

【教科書】

深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』(森話社・2002)

【参考文献】

ハルオ・シラネ、鈴木登美篇『創造された古典』(新曜社・1999)

科 目 名			
文化社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	北 川 紀 男

【講義概要・学習目標】

文化は人間にとって第二の本能ともいわれ、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、ついで人間と文化の間に介在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処かわれば、品かわる」とは、文化と社会の関係を巧くいいえて、社会学的にみて興味ある表現である。

以上の基礎的な考察を踏まえて、複雑多岐に分化し目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」「国際化」「情報化」「共生化」の視点にたつて、批判的に考察をすすめてみたい。

現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

【講義計画】

- ①イントロダクション ～社会学的认识について～
- ②社会学における文化の研究 ～歴史と方法論～
- ③文化の概念 ～シンボル・意味・価値～
- ④文化と社会規範 ～規範・社会化・タブー～
- ⑤生活文化 ～生活様式としての文化～
- ⑥文化と文明 ～文明社会の諸問題～
- ⑦知識の社会学 ～知識・イデオロギー・科学～
- ⑧大衆化と文化 ～大衆文化・被操作性～
- ⑨国際化と文化 ～民族文化・国民文化・異文化間コミュニケーション～
- ⑩情報化と文化 ～情報化社会・ニューメディア～
- ⑪共生化と文化 ～高齢者・障害者・ジェンダー～
- ⑫文化変動と社会変動

【成績評価の方法】

原則として、期末試験に基づいて評価する。ただし、学習状況をみてレポートの提出を求めることもある。

【教科書】

北川紀男『文化社会学研究』2004年(八千代出版)

【参考文献】

参考文献やその他の資料については、その都度指示する。

【備考】

SW生は、教育職員養成課程科目(随意)として履修

科 目 名			
文化人類学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	小 池 誠

【講義概要・学習目標】

文化人類学は自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住むさまざまな人々の多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチを通して、異文化に対する理解を深めることを目的とする。また、多様性を通して現れてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく違う習慣や社会のあり方を「遅れたもの」と見下すのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす、文化人類学の視点を身につけてもらいたい。

地域に根ざした日常文化を学ぶだけでなく、グローバリゼーションが進む現代世界で、地域社会がどのように変化しているかも考えていきたい。

受講生の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を講義のなかに取り入れていきたい。

【講義計画】

- 1 文化人類学とは何か？
- 2 文化とグローバリゼーション：文化とは何か、現代世界において地域社会がどう変わっていくか？
- 3 家族と結婚の多様性：家族とは、結婚とは何か？
- 4 交換と権力：なぜものを贈るのか？ どうして人は力をもつのか？
- 5 国家と民族：なぜ民族紛争が起きるのか？
- 6 宗教と儀礼：人は何を信じ、何を求めるのか？
- 7 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の成績をもとにして評価する。また、講義の中で必要に応じて提出を求める小レポートの内容も加味して成績をつける。

【教科書】

なし

【参考文献】

講義のなかで必要に応じて紹介する。

科 目 名			
法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

概要

この講義では、受講者に現代日本法の概観を与え、市民の社会生活に関連の深い法分野について基礎的な知識を講述する。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、刑法、国際法等）、私法分野（民法、商法等）、社会法分野（労働法等）の各々につき略説する。そのうえで、[講義計画]に則って授業を進めていく予定である。なお、私語は厳禁。その他、受講時の留意事項について最初の授業時に言及する。

目標

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法および行政法の基礎を理解させる。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

【講義計画】

- 1 社会生活と法
- 2 民法
 - 1) 総則（成年後見を含む）
 - 2) 物権
 - 3) 契約
 - 4) 不法行為
 - 5) 親族
 - 6) 相続
- 3 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 4 行政法
 - 1) 行政行為・行政手続
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【成績評価の方法】

正誤文選択等による短答式の学期末テストを予定している。

【教科書】

青山善充・菅野和夫編『ポケット六法 平成17年版』（有斐閣）
*他社の『六法』でも可

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

は
行

科 目 名			
法情報学 (旧経済学特講－法情報学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	福 永 正 三

【講義概要・学習目標】

情報技術の進展にともない、情報はますます多機能化し、その使い道は拡大・伸張の一途にある。その結果、われわれの生活は簡便かつ効率的になる反面、情報をめぐるトラブルは精神的にも経済的にも多発し、それによる影響は深刻化してきた。

このような事態に社会的なルールはどう対応しようとしているのか。例えば、個人情報やプライバシーをきっちり捕捉され、いつ暴かれるかもしれない人々の精神の平穩の確保、あるいは技術的にいとも簡単に盗用できる知的財産の保護などの要請に、法的な手当ては十分なのだろうか。また、今日の情報にかかわる技術環境に我々はどうか向き合っていくべきなのだろうか。例えば、インターネットを通じて個人があたかも放送局をもてるような状況に、われわれが「心すべき」ことがあるとすれば、それは何なのか。情報に関わるモラルと法的な規制との関係はどうなのか。

本講義は、前者を情報法編、後者を情報倫理編として、両者を連携的に学習することを目的とする。

【講義計画】

1. 情報化社会の諸相とその特質
2. 情報と法
 - 1) 情報保護法制・概論
 - 2) 人格権としての情報の保護
 - 3) 財産権としての情報の保護
 - 4) 刑事法による情報の保護
3. 情報と倫理
 - 1) データの収集・管理と情報倫理
 - 2) 電子メール・ホームページと情報倫理
 - 3) セキュリティ技術と情報倫理
 - 4) 情報公開と情報倫理
4. 情報社会における人間像

【成績評価の方法】

講義途中で2度、情報法編および情報倫理編の終了時に小テストをおこない、学年末の総合テストとともに、これらの結果を総合評価する。

なお、出席状況も考慮する。

【教科書】

教科書は使用せず、毎週の講義時にレジュメを配布する。

【参考文献】

講義の進行にあわせて図書館に所蔵されている適当な参考文献（雑誌論文を含む）の探し方を教示するとともに、参考資料として講義で取扱う法令や判例等をプリントして配布する。

なお、インターネット上で関連資料を掲載するサイトも紹介する。

科 目 名			
法職オリエンテーション			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	前 田 徹 生

【講義概要・学習目標】

法学部の学生諸君は、将来、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹、司法書士、公務員、警察官、あるいは企業家、一般企業のサラリーマンへ進む方が多いと思います。法職オリエンテーションは、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、地方公共団体の長、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々等をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での経験や法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。それによって、これから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めるとともに将来の職業選択の一助となることをねらいとしています。

【講義計画】

- 1) ガイダンス
- 2) ゲスト講師との交渉の結果、講義開始時点で、一覧表を配布する。

参考のため、昨年度の講師一覧を紹介する。

【2004年度法職オリエンテーション講師一覧】

- ①吉岡康博氏（LEC東京リーガルマインド講師・弁護士）「国家試験をめぐる最近の状況」、
- ②久米川良子氏（久米川法律事務所・弁護士）「弁護士として」、
- ③佐野 正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官）「裁判官の生活と仕事」、
- ④稲田順三氏（和泉市市長）「和泉市のまちづくり」、
- ⑤辰野 勇氏（(株)モンベル代表取締役社長・冒険家）「遊ビジネス——冒険と夢を語る」、
- ⑥新垣たずさ（総務省・本学卒業生）「公的仕事の多様性」、
- ⑦佐野 正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官）「弁護士の仕事」、
- ⑧原田英明（大阪府警察本部警察官採用センター）「警察官の職務」、
- ⑨藤村輝子氏（藤村法律事務所弁護士・元検察官）「検事、その多彩な職域と職務——格好よくするのは楽じゃない——」、
- ⑩辰野 勇氏（(株)モンベル代表取締役社長・冒険家）「グローバル・マーケットへの挑戦——カリフォルニア連邦地裁陪審裁判を経験して——」、
- ⑪藤原照明氏（元丸紅株式会社・ペイルート、香港、コロンボ勤務）「国際ビジネスと日本」

【成績評価の方法】

2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。出席日数と二度のレポート等を総合して成績評価の判断をおこなう。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

その都度紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
法女性学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	松 田 聰 子

【講義概要・学習目標】

男女共同参画社会基本法が制定されて以降、男女共同参画社会を目指すさまざまな取り組みが具体化されている。法女性学では、民法や刑法、社会保障法などを素材にわが国における女性・男性・性をとりまく法環境を概観し、男女共同参画の視点から法制度の問題点やこれからの展望を探っていく。諸外国との比較も欠かせない視点である。

【講義計画】

1. 堕胎罪と中絶規制
2. 中絶と生む権利
3. 優生保護法から母性保護法へ
4. 婚姻成立の要件と課題
5. 人工生殖と親子関係
6. 人工生殖とフェミニズム
7. 「選択的夫婦別姓制」の論点
8. 「離婚制度」見直し論
9. 夫婦財産制
10. 介護と養育
11. 女性の年金
12. セクシュアリティと売買春規制
13. 性暴力と刑法
14. セクシュアルハラスメント
15. 労働法と女性
16. 男女雇用機会均等法の課題
17. 女性と政治
18. 女性差別撤廃条約・北京会議・日本

【成績評価の方法】

学期末に行う論述試験で判断

【教科書】

参考文献のほか、とくに用いない

【参考文献】

浅倉むつ子他『ジェンダー法学』不磨書房、金城清子『ジェンダーの法律学』有斐閣、山下泰子他『法女性学への招待』有斐閣、角田由紀子『性差別と暴力』有斐閣、門広乃里子他『Invitation 法学入門（新版）』不磨書房、副田隆重他『ライフステージと法』有斐閣

科 目 名			
法制史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	和 田 卓 朗

【講義概要・学習目標】

世界史の構造を踏まえて、特に中国法史、日本法史との比較を念頭に置きつつ、西洋法史、とりわけドイツ法史を考察する。その際、ローマ史との連続性と西洋ないし西欧固有のもの成立を重視する。詳しい内容は、開講時にプリントを配布する。

【講義計画】

講義の前半では法学史、後半では国制史を取り上げる。詳しい内容は、開講時に配布するプリントを参照。

【成績評価の方法】

原則としてペーパーテストによる。講義に毎回出席して講義内容を理解さえしていれば、単位取得は困難ではない。受講者数が極端に少ない場合、レポートや平常点によって評価することも考えている。ただし、不合格者をレポートなどによって救済することはしない。

【教科書】

厳密な意味での教科書ではないが、坂井榮八郎『ドイツ史10講』岩波新書、佐藤賢一『英仏百年戦争』集英社新書、ピーター・シュタイン（屋敷二郎監訳、関良徳・藤本孝二訳）『ローマ法とヨーロッパ』ミネルヴァ書房、クヌート・ヴォルフガング・ネル（村上淳一訳、小川浩三解題）『権利保護の歴史』東京大学出版会、村上淳一『近代法の形成』岩波全書、村上淳一『<法>の歴史』東京大学出版会、カール・クレッツェル（石川武監訳）『ゲルマン法の虚像と実像—ドイツ法史の新しい道—』創文社、ハンス・シュロツサー（大木雅夫訳）『近世私法史要論』有信堂高文社。特に昨年復刊された村上淳一『近代法の形成』は重要。

【参考文献】

渡辺金一『中世ローマ帝国』岩波新書黄版、渡辺金一『コンスタンチノーブル千年』岩波新書黄版、原田慶吉『ローマ法』有斐閣全書、野田良之『フランス法概論（上）』有斐閣全書
その他、雑誌に掲載されたものでは是非読むべきものは石川武「西洋における法の生成（1）～（10）完」『書齋の窓』1997年4月以下、アーベルハルト・ヴァイス（和田卓朗訳）「近世社会の諸構造と発展（1）～（7）完」法学雑誌44巻4号～47巻1号
なお、主に法学雑誌にほとんど毎号発表されている私の論文や翻訳は必ず読んだことを前提に授業を進めるつもりであるので、留意されたい。詳しいリストは、講師紹介記事と一緒に開講時に配布する。さらに、中央公論社から出版された『世界の歴史』の新シリーズ、講談社の『日本の歴史』のシリーズ、平凡社ライブラリーにある『キリスト教史』全11巻は、法制史の前提となる歴史的教養を高める上で必読書といえる。

は
行

科 目 名			
法哲学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	沼 口 智 則

【講義概要・学習目標】

「法とは何か」という問いは、法を学ぶ者にとって最初に問い、そして最後にもう一度問う問題である。
 法哲学は、この問いに正面からとりくむ学問であるといえよう。法を通じて、現代をとらえ未来を展望するための基軸（視座）を獲得するための旅が、この問いから始まる。本講義では、「正義・権利・人権」を中心に法哲学の基本問題にアプローチしていきたい。

【講義計画】

メイン・テーマ「正義・権利・人権」

1. 法哲学とは何か
 - 1) 法概念論（法の一般理論）
 - 2) 法的推論（法学方法論）
 - 3) 法価値論（正義論）
2. 欧米諸国の法哲学の傾向－英・米・独を中心として－
3. アジア諸国の法哲学の傾向－日本・韓国を中心として－
4. 現代正義論・権利論・人権論
5. 現代法哲学と二十一世紀の諸問題－たとえば生命倫理・地球環境問題・核問題・民族や宗教紛争・テロ問題etc…－

【成績評価の方法】

夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験（論述式選択問題）で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

【教科書】

長谷川晃・角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（2004年 信山社）

【参考文献】

開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

科 目 名			
簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	河 野 勉

【講義概要・学習目標】

簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表・損益計算書）を作成しなければならない（商法第32条、商法第281条）。
 その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）& アカウンタビリティの必要性が最重要視されている。
 決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。
 企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。
 更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパーレス化と帳簿との関連についても言及したい。

【講義計画】

<前半>

1. 複式簿記の原理… (1) 簿記の意義と目的
 (2) 簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益）
 (3) 簿記の仕組み（取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目）
2. 仕訳帳と元帳… (1) 仕訳と仕訳帳
 (2) 転記と元帳
3. 試算表… (1) 試算表の意味と種類
 (2) 試算表の貸借合計不一致
4. 決算（その1）… (1) 決算の意味と手続
 (2) 帳簿決算（英米式・大陸式）

<後半>

5. 取引の記帳… (1) 現金・預金取引
 (2) 商品売買取引（仕入帳・売上帳・商品有高帳・商品売買益の計算）
 (3) 信用取引
 (4) 手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）
 (5) 有価証券取引
 (6) 固定資産取引
 (7) 個人企業の資本取引
6. 決算（その2）… (1) 決算整理の意味
 (2) 棚卸表
 (3) 棚卸減耗損と商品評価損
 (4) 貸倒引当損と貸倒引当金
 (5) 有価証券評価損
 (6) 減価償却
 (7) 費用・収益の繰延べと見越し
 (8) 精算表

【成績評価の方法】

簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。

【教科書】

武田隆二著
 「簿記一般教程」（中央経済社）
 加古 宜士・渡部 裕亘（編著）
 「新検定簿記 ワークブック3級」（中央経済社）

【参考文献】

加古 宜士・渡部 裕亘（編著）
 「新検定簿記講義3級」（中央経済社）

科 目 名			
簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	山 本 浩 二

【講義概要・学習目標】

企業は、利益を獲得することを目的にして、さまざまな活動を行っている。個人企業の場合には店主が出資し、株式会社の場合には株主が出資し、また銀行などから借り入れたりして経営活動に必要な資金を調達する。調達した資金によって経営活動に必要な物品を購入したり、商業の場合には販売するための商品を購入し、製造業の場合には原材料などを購入して製品を生産し、そして商品や製品の販売が行われる。このような主たる経営活動以外にも企業は多くの活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原則、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。簿記は、資格としても役立つ、日本商工会議所主催の検定試験は年に3回行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。

【講義計画】

前期

- (1) 複式簿記の計算原理（損益法と財産法）
- (2) 複式簿記の計算構造
- (3) 勘定と記帳
- (4) 試算表、精算表
- (5) 決算

後期

- (1) 個別勘定科目の処理－現金、当座預金
- (2) 個別勘定科目の処理－商品
- (3) 個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金
- (4) 個別勘定科目の処理－手形、その他の勘定
- (5) 決算手続きと決算整理事項

【成績評価の方法】

前期・後期の各期末試験で評価する。日商検定3級以上の合格者は成績評価にあたって配慮する。

【教科書】

加古宜士・渡部裕亘編著『新検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社
加古宜士・渡部裕亘編著『新検定簿記ワークブック3級商業簿記』中央経済社

【参考文献】

必要に応じて指示するが、日商簿記検定試験3級用のテキストならば、いずれも参考文献として適している。

科 目 名			
保険論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

保険はリスクに対処する手段の一つである。リスクに対する合理的管理法の、一般にリスクマネジメントと呼ばれている。リスクマネジメントの方法は、一般にリスク・コントロールとリスク・ファイナンスに分けて考えられるが、保険はリスク・ファイナンスのなかで中心的な役割をなしている。リスクが増大している現在の社会にあつて、リスクマネジメントや保険の学習はおそらく不可欠なものとなるだろう。

ところで、日本の保険制度は、現在転換期にあると思われる。以前の日本では考えられなかったような様々な出来事が起きている。これは、保険制度に限らず、日本自身が歴史的な転換期にあるからであろう。

この講義では、まず最初に、リスクマネジメントと保険についての基礎的な学習を行う。その上立って、歴史や文化等の諸要素を考慮しつつ、保障制度のあり方についても考えていきたい。

【講義計画】

主な講義内容は、次の通りである。

- (1) リスクの意味と内容
- (2) リスクマネジメント
- (3) 保険の意義と役割
- (4) 保険の類似制度
- (5) 保険の契約
- (6) 保険の種類と代表的な保険について
- (7) 保険の歴史と文化
- (8) 保障制度の将来

【成績評価の方法】

期末テストとレポート等による。出席等も考慮する場合がある。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

保険に関連するものは、基本的に参考になる。

【備考】

<02~04生>
共通自由科目として、B生対象外

は
行

科 目 名			
ボランティア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

阪神淡路大震災から10年が経過し、社会を形成する新しいセクターとして、その社会的地位を確立しつつあるボランティア活動、市民による自発的な活動、NPO等についての基本的理解を中心に、この10年におけるボランティア概念の変化、及び多様な活動内容を検証していくなかで、今社会に何が求められているのかを的確に読み取る「ちから」を育成する。特に「市民・シチズンシップ」という言葉をキーワードに講義をすすめていく。

【講義計画】

以下の内容（予定）を中心に授業をすすめる。

1. ボランティアと市民社会の関係
 - (1) 市民という概念／市民性
 - (2) 市民活動・ボランティア活動
 - (3) 市民社会という概念の変化
2. 公益性について
3. NPO（非営利組織）とは何か
 - (1) 組織運営について
 - (2) NPO法・制度
 - (3) 社会的役割
 - (4) その他
4. 市民社会を支える多様な活動領域
5. ボランティアと行政・企業との関係
 - (1) 連携・協働
 - (2) 企業の社会貢献・社会的責任
6. その他
 - (1) ボランティアコーディネーター
 - (2) ネットワーキング
 - (3) データで見るボランティア
 - (4) 海外との比較

【成績評価の方法】

出席、毎時の課題レポート、授業への積極的参加・貢献度、試験等により総合的に評価する。

【教科書】

特に指定しない。
毎時テーマに沿ったレジュメを配布予定。

【参考文献】

ボランティア白書2005（予定）（社）日本青年奉仕協会
その他、その都度紹介する。

【備考】

<02～04生>
共通自由科目として、SW生対象外

科 目 名			
翻訳研究 (旧英・日語翻訳法)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	柳 父 章

【講義概要・学習目標】

翻訳は英文和訳とは違う。どういう風に違うかという、翻訳はまず日本語でなければならぬ。英文和訳は、英語の勉強の必要上、教室内でつくられた特殊な日本語である。こういうことを、最初に講義する。それからあと、下記の教科書の英文を、毎時間1ページくらい翻訳してきて提出してもらう。これは毎時間の宿題である。そして、提出された翻訳を採点して記録しておく。目標は、翻訳することで、英文が精密に読み込めるようになり、また、日本語もしっかりと書けるようになることを目指す。毎時間自分の翻訳を提出しなければならないので、きっちり出席しないと合格できない。

【講義計画】

まず教科書の英文を中心に翻訳の勉強をする。毎時間翻訳する分は少ないが、おもしろそうで、かなりむつかしい文章を選んである。また、ときどき、教科書以外の、他の本などから選んだ英文も、コピーして配って使う予定である。

【成績評価の方法】

毎時間提出してもらう翻訳を採点し、その総合で評価する。期末試験はとくにおこなわない。

【教科書】

Hidegori Kashihara "Newspaper English 2005/2006" Seibido, 1,800（生協で販売）

【参考文献】

私じしんの翻訳についての著書や論文があるが、それは随時授業の中で紹介していく予定である。

科 目 名			
マーケティング論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	鈴 木 幾 多 郎

【講義概要・学習目標】

この講義では、マーケティングの役割、価値形成と顧客創造、価値実現と顧客維持、消費者市場と消費者行動の分析、競争への対処、マーケティング・チャンネル戦略、製品開発とポジショニング、価格戦略、ブランド戦略、オンライン・マーケティングなどのマーケティング問題を分析するための基本概念を説明し、ケースや事例研究をもとにマーケティング戦略の考え方を解説する。

【講義計画】

1. マーケティングの役割
2. 市場創造と企業活動
3. 価値形成と価値実現のマーケティング
4. マーケティング組織のデザイン
5. 事業の定義
6. 消費者行動の理解
7. 競争構造の理解
8. 取引関係の理解
9. マーケティング・チャンネル
10. 顧客関係のマーケティング
11. ブランドとマーケティング
12. オンライン・マーケティング

【成績評価の方法】

授業中の小テストならびに試験で評価する。

【教科書】

レジメ及び資料を配布する。

【参考文献】

石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎『マーケティング入門』日本経済新聞社（2004）

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
マスコミの英語研究 (旧マスコミの英語)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	萬 戸 克 憲

【講義概要・学習目標】

この授業では、TVニュースが聞き取れるようになることが目標であるが、現在日本および世界の各地で起こっているさまざまな問題について、幅広い立場から考えることができるように構成する。

基本的にはアメリカのニュース番組ABCを視聴しながら、*TIME* や*Newsweek*の関連記事も随時取り上げる。

なお、各課題のあとには、そのテーマについて自分の考えを100～150語の英語でまとめて提出し発表する。

さらに毎時間の最初には数名に英語でのスピーチを課す。

途中で欠席すると、どんどん遅れていくので欠席しないように。

【講義計画】

次の課題を取り上げる。ただし、受講者の希望により多少の変更はある。

前期

Japanese Hostage Released
The Longest Flight
Social Security and Medicare
What Do Women Want in a Car
Same-Sex Mariiage

後期

Smoking Ban in Ireland
Language Barrier : Translators
Consumer Prices
Safety in the Schools
Cheating Epidemic

【成績評価の方法】

授業への参加度、4～5回の英語でのスピーチ、各課の後に提出する英語でのessayおよび期末考査

【教科書】

山根 繁/Kathleen Yamane *ABC World News 7* Kinseido

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
マス・コミュニケーション論Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	中 村 秀 之

【講義概要・学習目標】

本講義が扱うのはマス・メディアとマス・コミュニケーションにおける映像の問題です。映像は「メディア」としてどのように使われ、どのような特性をそなえているのか、映像による「コミュニケーション」とはいったい何なのか。このような諸問題に、特に歴史的・文化的な視点からアプローチしていきます。19世紀初頭の写真の発明から映画やテレビ、ビデオを経て現代のデジタル映像まで、映像にかんする技術、その利用形態、組織や制度、表現様式等の変遷を述べ、さらに、映像をめぐる人々の経験のあり方や、映像に対する考え方がどのように変化してきたかを論じます。現代の生活世界に深く浸透している映像メディアの歴史を学ぶことを通して、映像メディアはどのようにして私たちの「現実」を作り出してきたのか、また、私たちは「映像メディアという現実」とどのような関係を結んでいるのか、このような二重性について理解を深めることが本講義の目標です。

【講義計画】

次のような項目を予定していますが、詳細は第1回授業のガイダンスで説明します。映像とは何か。メディアとは何か。マス・メディア、マス・コミュニケーションとは何か。その研究史。19世紀における視覚の変容。写真の発明と「写真」という観念の形成。動画の誕生と見世物としての「初期映画」。サイレント映画の特性とその多様な発展。写真製版と印刷メディアの変化。システムとしてのハリウッド映画。ノンフィクション映画と映像の（メディア）化。テレビの普及と家庭の再編。テレビとグローバリゼーション。ビデオと時間の変容。環境としての映像。デジタル映像と「現実」観念の危機。反メディアとしての映像芸術、など。

【成績評価の方法】

学期末の筆記試験で評価します。出席点はカウントしませんが、授業への参加が講義内容の理解にとって不可欠であるのはいうまでもありません。本講義は授業中に映像資料を視聴する機会が多いので、その点を特に銘記して受講してください。

【教科書】

授業でプリントを配布します。

【参考文献】

適宜、指示ないし紹介します。

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、SS生対象外

科 目 名			
マス・コミュニケーション論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	津金澤 聡 廣

【講義概要・学習目標】

我々は、日々、新聞・雑誌を読み、テレビ・ラジオを視聴したり、他の様々なメディア文化に接触して暮らしている。そして、それらの情報摂取をとおして、いわばその時代の“常識”や社会風俗を吸収している事が多いが、そもそも、マス・コミュニケーションとは何なのか、マスメディアは我々の生活にとってどんな社会的役割を果たしているのか、を改めて考え直してみたい。あるいは、マス・コミュニケーションを媒介するマス・メディアのあり方はこれでよいのか、何が問題なのかを、共に考え、検討したいと思う。

【講義計画】

次の各領域について概説を行う。

1. ジャーナリズム、マス・メディア、マス・コミュニケーションの定義
2. テレビ批判の系譜
3. マス・メディアをめぐる法的諸問題
4. 放送法の主要な論点
5. プロパガンダ研究から宣伝・広告研究へ
6. 宣伝法と現代消費社会における宣伝・広告の手法
7. テレビCMの社会心理
8. プライバシーの権利と肖像権をめぐる諸問題

【成績評価の方法】

平常点（レポート提出等）と学期末試験による総合評価。

【参考文献】

津金澤聡廣・田宮武 著
『テレビ放送への提言』
ミネルヴァ書房、1999年
その他、その都度指示する。

科 目 名			
マルチメディア実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	水 口 薫

【講義概要・学習目標】

今日、情報社会・人間生活においてコンピュータ、ネットワークの発達が目覚ましいものがある。文字データだけであったものが画像（静止画、動画）音声データを処理できるようになってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ち、またそれらを扱う能力、メディア・リテラシー（メディアの読み取り、書く能力）は、必要不可欠の要素となってきた。

本講義では、メディア統合、情報・通信時代のそれぞれのメディアの特性、基礎理論を理解し、表現手段として活用できる能力、また単にメディアコンテンツが作れるというだけでなく、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を実習で身に付けることを目的とする。

【講義計画】

1. マルチメディア概論
 - 1) マルチメディア概論、利用方法
 - 2) ソフトウェアとハードウェア環境
2. デジタルコンテンツの作成方法とメディア表現
 - 1) 静止画（デジタル・カメラ）撮影
 - 2) 静止画作成・編集（フォトショップ）
 - 3) 動画（ビデオ・カメラ）撮影
 - 4) 動画作成・編集（プレミア）
3. マルチメディアと周辺領域
 - 1) インターネット
 - 2) データベース、関連法規、倫理との関連
4. まとめ

【成績評価の方法】

実習と出席点で総合評価

【教科書】

特になし。適時、プリントを配布。

【参考文献】

「メディア・リテラシー マスメディアを読み解く」その他、講義の時に提示する。

科 目 名			
マルチメディア実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2	平 井 尊 士

【講義概要・学習目標】

今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。

そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実に努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

【講義計画】

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
 - 1) マルチメディア概論
 - 2) 各マルチメディアの利用方法
 - 3) 学校における情報環境
2. ソフトウェアを選択して、メディアの表現や発信
 - 1) デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
 - 2) 印刷物の電子化技術
 - 3) デザイン技法とのかかわり
3. モデル化とシュミレーション（作品作成）
 - 1) モデル化
 - 2) マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
4. シュミレーション（表現方法の工夫・情報の統合）SGML XML の処理演習と活用事例
5. マルチメディアと周辺領域の関連
 - 1) 情報検索およびデータベースとマルチメディア
 - 2) 関連法規、倫理との関連
6. まとめ

【成績評価の方法】

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

【教科書】

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

ま
行

科 目 名			
マルチメディア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	水 口 薫

【講義概要・学習目標】

今日、世界でやりとりされる主な情報伝達方法は、郵便、新聞、雑誌、電話、映画、テレビ、CM、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じく巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

それは単なるコンピュータの発達、変化ではなく、メディアのコンテンツがネットワーク上で融合することを意味しており、情報・通信産業あるいは人間社会にまで大きな影響を与えている。本講義では、メディアとソフトウェア、表現、社会、環境はどのような関連をもつのか、その基礎理論、歴史、現状を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力、メディア・リテラシーを身に付けることを目的とする。

【講義計画】

1. メディア（媒体）とは
 - 1) メディアの歴史
 - 2) メディアと社会環境
 - 3) メディア・リテラシーとは
 - 4) メディアと倫理、関連法規
2. 表現とメディア
 - 1) ハードウェアとソフトウェア
 - 2) マルチメディアの現在
 - 3) ネットワーク社会（インターネット）
3. マルチメディアの意義と問題点
 - 1) メディアとしての仮想現実空間
 - 2) メディアとリアリティ（公共媒体）
 - 3) メディアとリアリティ（広告媒体）
4. まとめ

【成績評価の方法】

出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点で総合評価

【教科書】

特になし。適時、プリントを配布

【参考文献】

「メディア・リテラシー マスメディアを読み解く」
 カナダ・オンタリオ州教育省（編）（リベルタ出版）
 FCT（市民のテレビの会）（訳）
 その他、講義の時に提示する。

科 目 名			
マルチメディア論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2	平 井 尊 士

【講義概要・学習目標】

今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

そこで本講義においては、メディアとソフトウェア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨ててきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

【講義計画】

1. マルチメディア概論（特徴と利用方法）
 - 1) マルチメディアの現在
 - 2) 各マルチメディアとインターネット
2. ソフトウェアとメディア
3. 表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
 - 1) 電子化技術の追求
 - 2) メディアとしての仮想現実空間
 - 3) メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
 - 4) 図形表現とその演習
 - 5) 画像表現とその演習
4. 環境とメディア
 - 1) メディアと環境
 - 2) メディアと歴史
 - 3) メディアと倫理（ことばの暴力）
 - 4) 関連法規との関連
5. まとめ：マルチメディアの意義

【成績評価の方法】

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

【教科書】

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社 2003. 4）

科 目 名			
民事執行法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	本 間 法 之

【講義概要・学習目標】

民事執行法とは、簡単に言えば、強制執行の手続を定める法律のことです。民法・商法などの実体法上の権利は、民事訴訟の判決によって観念的に形成（実現）され、強制執行手続によって事実として形成（実現）されることになります。本講義では、この民事執行手続の基礎を概説します。

民事執行法は、「民法・商法→民事訴訟法」に続く民事法の一連の流れの延長線上にあります。本講義を受講する学生諸君には、民法・商法、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の倒産処理法を併せて受講することが望まれます。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス（講義の進め方、成績評価、その他）～民事執行法の位置づけ
- 第2回 民事執行制度の意義と基本構造
- 第3回 執行機関と執行法上の不服申立て
- 第4回 不動産執行（1）－差押え
- 第5回 不動産執行（2）－売却の準備
- 第6回 不動産執行（3）買受人の法的地位
- 第7回 不動産執行（4）引渡命令
- 第8回 不動産執行（5）執行競合・配当要求
- 第9回 動産執行
- 第10回 債権執行（1）－差押え
- 第11回 債権執行（2）－換価・配当
- 第12回 非金銭執行（1）－引渡・引渡執行
- 第13回 非金銭執行（2）－代替執行、間接強制、意思表示義務
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

（1）平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、（2）講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【教科書】

講義では、レジュメを配布する予定です。講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。平成17年版以降の六法でなければ役に立ちません。「六法」の種類は問いませんが、「民事執行規則」が掲載されている六法を用意して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
民事訴訟法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	本 間 法 之

【講義概要・学習目標】

民事訴訟法の判決手続について概説します。判決手続とは、訴えの提起から審理を経て判決の確定に至るまでの裁判の手続のことです。民事訴訟法に代表される手続法と民法・商法などの実体法は、しばしば車の両輪に例えられます。実体法上の権利の保障は、その権利の実現の手続がなければ、画に描いた餅にすぎません。この意味で、手続法の学習は、実体法の学習と並んで必要不可欠であり、権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって初めて権利の何たるかが理解できる、といっても過言ではありません。多くの大学の法学部で民事訴訟法が必修科目とされているのはこのためです。

法律学は、実体法・手続法の双方の学習を通じて初めて理解することができるものといえます。そこで、本講義の受講生には、商法(会社法)、さらに秋学期に開講予定の民事執行法および倒産処理法を併せて受講することが望まれます。「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法→倒産処理法」と学んで初めて民事法の全体法が理解できるのです。

【講義計画】

- (1) 訴訟の対象（訴えと請求、訴訟物）
- (2) 訴訟の開始（訴え提起とその効果）
- (3) 訴訟要件（訴えの利益）
- (4) 訴訟の主体（裁判所・当事者・代理人）
- (5) 判断対象の設定と判断資料の提出（処分権主義）
- (6) 訴訟の進行（職権進行主義）
- (7) 訴訟手続の中断・中止
- (8) 争点整理手続
- (9) 口頭弁論と弁論主義
- (10) 口頭弁論における当事者の態度
- (11) 証拠（証拠調べ・自由心証主義・証明責任）
- (12) 終局判決による訴訟の終了
- (13) 判決の効力（既判力・執行力・形成力）
- (14) 判決効の拡張
- (15) 当事者による訴訟の終了（訴えの取り下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解）
- (16) 複雑な訴訟（請求の複数、多数当事者訴訟、参加）
- (17) 訴訟承継
- (18) 上訴・再審
- (19) 国際民事訴訟－国際私法との交錯
- (20) 裁判外紛争処理手続（ADR）と民事訴訟

【成績評価の方法】

（1）平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、（2）講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【教科書】

講義では、レジュメを配布する予定です。講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。重要な法改正がありましたので、平成17年版以降の六法でなければ役に立ちません。また、「六法」の種類は問いませんが、民事訴訟規則が掲載されている六法を携行して下さい。特に、本講義とあわせて秋学期の民事執行法や倒産処理法の受講も考えている人は、民事執行規則・民事再生規則・会社更生規則など、参照が必要な規則類が掲載されているものを購入して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

ま
行

科 目 名			
民俗学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	橋 内 武

【講義概要・学習目標】

庶民の伝承文化を観察・記述するのが民俗学である。本講では、まず民俗学とは何かという問いに答えたあと、さまざまな伝承文化について解説する。究極的には伝承文化への興味と関心を抱いて、履修生諸君が自ら身近な民俗事象への考察を進めることができるようになることをその学習目標とする。

【講義計画】

1. 民俗学とは何かー民俗学の課題と方法
2. 人生儀礼ー誕生から葬送まで
3. 年中儀礼ー盆と正月
4. 俗信ー予兆・卜占・禁忌・呪術
5. 民俗語彙ー地名・屋号
6. 昔話ータイプと研究方法

【成績評価の方法】

期末試験による。

【教科書】

稲田浩二・稲田和子編著、『日本昔話100選』、講談社。
新谷尚紀編著、『民俗学がわかる事典』、日本実業出版社。

【参考文献】

福田アジオ他編、『講座 日本の民俗学』、全11巻、雄山閣出版。
福田アジオ他編、『日本民俗大辞典』、全2巻、吉川弘文館。

【備考】

<02～04生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
民法 I [J]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	林 錫 璋

【講義概要・学習目標】

民法の全体像を俯瞰した上、民法の意義および民法の指導原理に移り、民法の第一編の総則として、権利の主体（自然人、法人）、権利の変動原因（法律行為、時効）などの規則について、通説・判例の立場から、その基本構造と各種の法的概念及び制度を論述し、実務・理論・立法の動向にも触れ、これを解説し、民法の基本理念及び共通原則、所定の諸制度に対する正確な理解を期するとともに、これをもって民法全体の学習へ導入する。

【講義計画】

- 1 民法の位置づけ
- 2 民法の法源
- 3 民法の基本原則とその修正
- 4 民法の適用のしくみと解釈
- 5 権利能力と行為能力
- 6 成年後見制度
- 7 団体と法人格
- 8 法人の設立と解散
- 9 権利の客体
- 10 法律行為の解釈
- 11 法律行為の有効要件
- 12 意思の欠・と意思の瑕疵
- 13 心裡留保と虚偽表示
- 14 錯誤
- 15 詐欺と強迫
- 16 代理の仕組みと働き
- 17 本人と代理人の関係
- 18 代理人と相手方との関係
- 19 表見代理
- 20 無効と取消
- 21 条件と期限
- 22 時効制度

【成績評価の方法】

出席、小テスト、レポート及び期末試験による総合評価

【教科書】

安井宏ほか著『プリメール民法I 民法入門・総則』（法律文化社）
コンサイス判例六法（三省堂）

【参考文献】

甲斐道太郎編『新現代民法入門』（法律文化社）

科 目 名			
民法Ⅱ [J]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	林 錫 璋

【講義概要・学習目標】

物権法は、財産の利用に関する生活関係を規律する法であり、民法第2編がこれを定めている。物権とは何か、から始め、物権全体に通じる考え方について講義する。物権変動は、物権法の中で最も重要な問題であり、物権変動の法律過程を法律的に分析し、物権総論の理解を深める。さらに、この頃、めまぐるしく判例が変更され、学説も新しい展開がみられる抵当権を中心とする担保物権（法定担保、約定担保、非典型的担保）などについても、学説・判例を分析し、諸制度に対する正確な理解を高める。

【講義計画】

- 1 物権法の基礎知識
- 2 物権の効力
- 3 公示の原則と公信の原則
- 4 意思表示による物権変動
- 5 不動産の二重譲渡
- 6 法律行為と登記
- 7 民法177条の「第三者」の範囲
- 8 動産に関する物権変動
- 9 所有権の意義と内容
- 10 相隣関係
- 11 共有
- 12 建物の区分所有
- 13 用益物権
- 14 占有権
- 15 抵当権の設定
- 16 抵当権の効力
- 17 抵当権の物上代位
- 18 共同抵当
- 19 抵当権の処分
- 20 抵当権と利用権の関係
- 21 根抵当
- 22 質権
- 23 法定担保物権
- 24 非典型的担保

【成績評価の方法】

出席、小テスト、レポート及び期末試験による総合評価

【教科書】

松井宏興他著『プリメール民法II 物権・担保物権法』（法律文化社）判例六法（三省堂）

【参考文献】

甲斐道太郎・石田喜久夫編
『新民法教室I〔第2版〕総則・物権』（法律文化社）

科 目 名			
民法Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	田 中 志 津 子

【講義概要・学習目標】

一定の財産上の行為を請求する権利である債権の意義、目的、内容について、具体的な事例を取り入れつつ講義を進める。
債権の効力や多数当事者の債権関係等、私人間の法律関係を学ぶ上で重要な事柄の理解を目指す。

【講義計画】

- 債権の意義・法的性質
- 債権の目的・種類
- 債権の効力序説・現実的履行の強制
- 債務不履行（1）履行遅滞
- 債務不履行（2）履行不能
- 債務不履行（3）不完全履行
- 債権者代位権
- 債権者取消権
- 連帯債務
- 保証債務
- 債権譲渡
- 債務引受
- 債権の消滅（1）弁済・代物弁済
- 債権の消滅（2）供託・相殺
- 債権の消滅（3）更改・免除・混同

【成績評価の方法】

試験（80%）及び授業態度等（20%）により総合的に評価する。

【教科書】

新民法概説（2）（改定版）債権（有斐閣双書；甲斐 道太郎、椿 寿夫、乾 昭三（編集）；有斐閣；ISBN：4641112312（2002/05）

【参考文献】

- ・民法判例百選（1）（別冊ジュリスト（No.159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版 版1巻（2001/09）
 - ・民法判例百選（2）（別冊ジュリスト（No.160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版 版2巻（2001/10）
- *理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。
詳細は授業にて説明する。

科 目 名			
民法Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	田 中 志 津 子

【講義概要・学習目標】

典型契約を中心に、具体的事例を用いつつ、契約という法的関係を理解することを目標とする。

また、契約関係がない場合の法的処理についても学習する。

【講義計画】

契約総論
 贈与
 交換
 売買
 消費貸借
 使用貸借
 質貸借
 請負
 委任
 雇用
 組合・終身定期金・和解
 事務管理・準事務管理
 不当利得
 不法行為
 製造物責任法
 消費者契約法
 特定商取引法

【成績評価の方法】

試験（80％）及び授業態度等（20％）により総合的に評価する。

【教科書】

新民法概説（2）（改訂版）債権（有斐閣双書；甲斐 道太郎、椿 寿夫、乾 昭三（編集）；有斐閣；ISBN：4641112312（2002/05）

【参考文献】

- ・民法判例百選（1）（別冊ジュリスト（No.159）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114595；第5版 版1巻（2001/09）
 - ・民法判例百選（2）（別冊ジュリスト（No.160）；星野 英一、平井 宜雄、能見 善久；有斐閣；ISBN：4641114609；第5版 版2巻（2001/10）
- *理解を深めるため、上記指定教科書とは別に基本書（特に指定しない）を読むことを推奨する。
 詳細は授業にて説明する。

科 目 名			
民法Ⅴ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	佐 藤 啓 子

【講義概要・学習目標】

民法第四編「親族」・第五編「相続」を取り上げる。

法職につく人もつかない人も、将来必ず関係するであろうテーマである。

基礎知識の習得と、法学的思考の応用に限らず、ごく一部であるが法社会学、法史学（いわゆる基礎法）の必要な分野であるため、そのようなさまざまな分野のごく小さな入門も兼ねざるを得ない。

また、判例の引用を常に行うことにより、裁判における条文の解釈の展開を学ぶ。

【講義計画】

基本的には教科書に沿って進める。ただし、離婚と親子法の部分及び相続人の不存在と財産分離の部分は、進行を組み替えるかもしれない。

【成績評価の方法】

出席、その態度、小テストと期末テストで評価する。出席管理のために座席指定制とする

【教科書】

伊藤進編『ホーンブック民法Ⅴ』（北樹出版）
 本田純一ほか編『基本判例4 家族法』法学書院—これについては新版が近々出る予定なので最初の講義の指示を待つこと最新の六法

【参考文献】

特になし

科 目 名			
民法A (旧民法I)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	徳 野 剛

【講義概要・学習目標】

私達の日常生活に最も関係の深い法律は、民法であるし、また民法の知識・理解はあらゆる法の知識、理解の基礎、基盤をなすものである。民法典は、1044条ありその範囲は広い。

実社会においては、激増する交通事故の法律問題、離婚、相続、金銭消費貸借、下宿のトラブル等、事件は非常に多い。このような場合にも、民法のルールに従って事件をスムーズに解決しなければならない。

本講義は「民法総則」である。総則を中心に講義を進めるが、必要に応じて、「物権」「債権」にも触れる。

授業には六法全書を持参して出席願いたい（岩波「コンパクト六法」、有斐閣「ポケット六法」、三省堂「新六法」などがよい）。講義にはその流れがあるので、やむを得ない場合のほか、多く出席することが必要である。

【講義計画】

下記の事項について、重要論点を講義する。

1. 序—民法とは何か
2. 民法の体系
3. 民法の基本原則
4. 権利の主体—人
 - (1) 自然人
 - (2) 法人
5. 意志能力と行為能力
6. 権利の客体—物
 - (1) 物の概念
 - (2) 物の分類
7. 法律行為
 - (1) 意思表示
 - (2) 意志と表示の不一致
8. 代理
 - (1) 代理の意義
 - (2) 無権代理
 - (3) 表見代理
9. 無効と取消
10. 条件と期限
11. 時効

【成績評価の方法】

原則として、筆記試験による。期末の試験を重視し、出席状況なども考慮する。

【教科書】

佐久間 毅著「民法の基礎 1総則」（有斐閣）

【参考文献】

半田 正夫著「やさしい民法総則（第三版）」法学書院

科 目 名			
民法B (旧民法II)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	徳 野 剛

【講義概要・学習目標】

本講義は、「物権法」である。所有権を中核とする物権法は、財貨の帰属に関する中心的な法で、近代資本主義社会を成立させる基礎的な制度である。そこで、どのようにして財貨を帰属せしめるかが、民法にとって重要性をもつものである。この点、物権変動における意思主義、対抗要件問題を中心に講義をする。物権の客体は、原則として、特定した独立の物である。その「物」に設定される担保物権にも言及する。

講義はできるだけ具体的な事例を挙げて分かり易く説明したい。物権法や債権法を理解しやすくするため、「民法A」（民法総則）を履習願いたい。講義には、六法を持参して出席を多くすること。

【講義計画】

下記の事項について重要論点を講義する。

1. 物権とは何か。物権と債権の相違
2. 物権法の構造と体系
3. 物権の変動
 - (1) 物権変動を生ずる法律行為
 - (2) 不動産物件変動の公示
 - (3) 動産物権変動の公示
4. 即時取得
5. 占有権
6. 所有権
7. 用益物権
 - (1) 地上権
 - (2) 地役権
 - (3) 永小作権
 - (4) 入会権
8. 担保物件（1）—法廷担保物件—
留置権、先取特権、質権、抵当権
9. 担保物件（2）—非典型担保—
譲渡担保、仮登記担保

【成績評価の方法】

原則として、筆記試験による。期末の試験を重視し、出席状況なども考慮する。

【教科書】

山野 章夫「初歩からはじめる物権法」（日本評論社）

【参考文献】

伊藤 進「民法II 物権法」（北樹出版）

科 目 名			
民法入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	佐藤啓子

【講義概要・学習目標】

事例を中心に、民法の基本原則と構造を学ぶ。
 条文の読み方をはじめとする基礎知識と、要件・効果・趣旨を中心とする初歩的解釈手順を「知ること」と「身につける」ことで、以降の法律学学習につなげたい。

【講義計画】

事例は教科書から採ることもあるしこちらで作成することもある。
 大まかに言えば、法律学の体系、総則、債権各論、物権、債権総論、物権、親族法、相続法の順で講義する予定である（変更の可能性あり）。

【成績評価の方法】

学期末の試験、小試験および出席とその態度による。座席を指定する。

【教科書】

追って指示する
 講義のときには、六法を必ず持参すること

【参考文献】

道垣内弘人『ゼミナール民法入門』（日本経済新聞社）
 星野英一『民法のもう一つの学び方』（有斐閣）

科 目 名			
文字・表記論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	藤原健

【講義概要・学習目標】

言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。

日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。

外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。

【講義計画】

1. 日本語の表記法と基準
 - 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）
 - 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）
 - 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）
 - 4) 送り仮名の付け形
 - 5) ローマ字の種類と表記法
2. 文字に関する知識
 - 1) 漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）
 - 2) 仮名の成り立ち（真名、平仮名、片仮名等）

【成績評価の方法】

定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。
 詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】

富田隆行・眞田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック（2）新・表記』（国際交流基金／凡人社）

【参考文献】

清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）

【備考】

<02～04生>
 E・SS・SW・B・J生対象は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
野外レクリエーション実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

組織キャンプを素材に、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者への野外活動指導の理論と技術を身につける。

施設などの福祉現場に出た時に役に立つ人材になれるよう、教室での受け身の授業で終わらず、積極的に野外に出て、安全やプログラム運営技術、グループワークの体験ができるよう、実習も行う。

【講義計画】

- ①福祉におけるレクリエーションの現状と課題
- ②組織キャンプの理解
- ③キャンプの対象とプログラム
- ④個々のプログラムの運営と指導
- ⑤キャンプ実習
- ⑥救急法実習
- ⑦キャンプと福祉対象者
- ⑧記録と評価

【成績評価の方法】

出席点と期末のレポート

【教科書】

「CAMPING FOR ALL」(エルピス社)

【参考文献】

- 「いきいき高齢者キャンプ」(朱鷺書房)
「高齢者レクリエーション指導の手引き」(朝日新聞厚生文化事業団)
「痴呆性老人とキャンプ」(朱鷺書房)

科 目 名			
ヨーロッパ経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	棚 池 康 信

【講義概要・学習目標】

この講義ではヨーロッパの経済統合(EU)について論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB(欧州中央銀行)に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また昨年は、中東欧諸国を中心に10カ国が新たに参加し、ヨーロッパの一体的空間はさらに経済的・政治的重要性を高め、EU基本法の採択によって統合が深まろうとしている。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深い、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする

【講義計画】

- 前期 市場統合とユーロの導入
1. 国際経済学とヨーロッパ経済論
 2. 市場統合の論理と現実
 3. 市場統合と地域政策
 4. 市場統合と経済通貨同盟
 5. 92年市場統合
 6. マーストリヒト条約とEU
 7. ユーロの導入階
 8. 経済通貨同盟の機能と運用
- 後期 経済通貨同盟のディメンション
1. 92年市場統合の意義
 2. 単一欧州議定書
 3. 統合の再出発と地域政策
 4. 市場統合と域内貿易・直接投資
 5. 経済通貨同盟段階の共同市場
 6. 市場統合の現状
 7. 市場統合とEU経済の構造改革
 8. ユーロ導入後のEU経済とEU基本法

【成績評価の方法】

前期・後期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。

【教科書】

棚池康信『EUの市場統合』晃洋書房

【参考文献】

- 田中素香他『現代ユーロ経済』有斐閣
島野卓爾他編『EU入門』有斐閣
清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房
内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房
田中素香編『現代ヨーロッパ経済論』有斐閣
田中友義編『ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房

科 目 名			
ヨーロッパ文化研究－西洋中世文学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	米 山 喜 晟

【講義概要・学習目標】

この授業は、ヨーロッパ中世の文学の概説にあてる。だがその前に、当時の書物とはどんなものだったかを、紙や筆記用具の歴史などとともに簡単に眺めておく。また古代ローマ文学の遺産として、ゴート族の支配下のポエティウスの『哲学の慰め』などにも触れて、古代との連続性をも考えたい。それから年代記や歴史の類いをいくつか眺めた後、『ローランの歌』に代表される叙事詩をはじめトロバドゥールの代表的叙情詩、修道院文学の代表『アベラールとエロイズ』、そして『バラ物語』、ファブリヨールから『神曲』、ペトルルカ、そしてイタリア・ノヴェッラやフランソワ・ヴィヨン、チョーサーなど、翻訳の抜粋、時には英訳などを用いて具体的に西洋中世の文学史をたどっていく。

【講義計画】

本の歴史と紙や筆記用具について3～4時間、神話や西欧の古い歴史、年代記2～3時間、叙事詩3～4時間、叙情詩2～3時間、修道院文学2～3時間 『バラ物語』等1～2時間、ファブリヨールとイタリア・ノヴェッラ3～4時間、ダンテ、ペトルルカ、ヴィヨン、チョーサーなど3～4時間

【成績評価の方法】

出席点と二度のレポートによる評価。今年はずたびテキストを輪読してもらうので、出席点を重視したい。

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

筑摩書房：世界文学大系65 中世文学集、同66 中世文学集2

科 目 名			
ヨーロッパ文化研究－フランス文化の諸相			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	アニー ヤマサキ

【講義概要・学習目標】

きょう現在のフランス人のライフスタイルや思考傾向などについて、色々なアスペクトを通して説明いたします。

【講義計画】

- ・個人としてのフランス人
フランス人は自分の外観をどのように意識しているか
フランスの礼儀作法
- ・フランスの家族
男女のあり方
若者たち
日常生活
- ・フランスの社会
社会生活
価値観
- ・仕事とレジャー
就労人口
ひまな時間とヴァカンス
- ・その他

【成績評価の方法】

平常点と期末試験で評価します。

【教科書】

なし

【参考文献】

草場安子『現代フランス情報辞典』大修館書店

科 目 名			
リハビリテーション論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	奥 田 邦 晴

【講義概要・学習目標】

障害者が豊かな生活を営んでいく上で、リハビリテーションから自立生活への円滑な連携が非常に重要である。そのためには、リハビリテーションは、適切な時期に実施されまた、必要最小限に時間を限定したものでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健－医療－福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。なお、リハビリテーション論を学ぶ上で障害についての理解を深めることは非常に重要である。代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。

【講義計画】

1. リハビリテーション総論
2. 障害と評価（脊髄損傷、脳卒中、脳性麻痺その他）
3. 各種専門職種
4. 疾患・病態からみたリハビリテーションの実際
5. 補装具
6. リハビリテーション工学
7. 障害者のスポーツ
8. 地域ケア
9. その他

【成績評価の方法】

筆記試験

【教科書】

特に定めない

【参考文献】

- 「入門リハビリテーション概論」 中村隆一 医歯薬出版株式会社
「リハビリテーション論」 福祉士養成講座編集委員会 中央法規
「リハビリテーションの理論と実際」 上田敏 ミネルヴァ書房
「リハビリテーションを考える」 上田敏 障害者問題双書
「リハビリテーション概論」 砂原茂一 医歯薬出版株式会社

科 目 名			
流通論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	隅 田 孝

【講義概要・学習目標】

流通とは生産と消費を架橋する経済的、社会的活動を意味する。従来、流通は生産－仲介－消費という流れを基本として行われていた。また、流通の形態は産業ごとに多様であり、複雑なものである。たとえば、ある産業では仲介業者が重層的に介入する流通システムが確立されている。

今日では、インターネットの普及により流通の様相が大きく変化してきている。製品のカスタマイゼーションや B to B、B to C、C to C 取引に見られるように、流通システムは進化の過程にあるといつてよいだろう。

本講義では、流通の基本概念を理解した上で、マーケティング論におけるブランド、消費者行動、インターネット・マーケティングなど流通と密接にかかわりをもつトピックを取り上げ、流通システムの進化について理解していく。

【講義計画】

1. オリエンテーション
2. 流通システムの基本概念
3. 市場の概念
4. 製品・販売促進・価格・流通チャンネル
5. ブランド
6. 消費者ニーズ
7. 消費者行動
8. 消費文化
9. インターネット・マーケティング
10. ブランド・コミュニティ
11. まとめ

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、理解度確認テスト、期末試験により総合的に評価する。

【教科書】

岸本裕一編著『Brand・GM・SCM ―食品産業マーケティングのフロンティア―』、農林統計協会、2004年。

【参考文献】

(社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシックス』第二版、同文館、2001年。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
流通論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	岸 本 裕 一

【講義概要・学習目標】

流通とは生産と消費を架橋する経済的、社会的活動を意味する。従来、流通は生産－仲介－消費という流れを基本として行われていた。また、流通の形態は産業ごとに多様であり、複雑なものである。たとえば、ある産業では仲介業者が重層的に介在する流通システムが確立されている。

今日では、インターネットの普及により流通の様相が大きく変化してきている。製品のカスタマイゼーションや B to B、B to C、C to C 取引に見られるように、流通システムは進化の過程にあるといっていよう。

本講義では、流通の基本概念を理解した上で、マーケティング論におけるブランド、消費者行動、インターネット・マーケティングなど流通と密接にかかわりをもつトピックを取り上げ、流通システムの進化について理解していく。

【講義計画】

1. オリエンテーション
2. 流通システムの基本概念
3. 市場の概念
4. 製品・販売促進・価格・流通チャンネル
5. ブランド
6. 消費者ニーズ
7. 消費者行動
8. 消費文化
9. インターネット・マーケティング
10. ブランド・コミュニティ
11. まとめ

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、理解度確認テスト、期末試験により総合的に評価する。

【参考文献】

(社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシック』第二版、同文館、2001年。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
臨床心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	岡 井 哲 明

【講義概要・学習目標】

「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（疾病等を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する「心理学」から派生した分野であり、生涯（ライフサイクル）にわたる人間を対象としている。その意味では非常に広い範囲を領域として取り扱っている。

現代は複雑な社会である。私達を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、日々日常的に現れては繰り返される、様々な理解を超える出来事（人間の引き起こす）は、私達の心に関連し同時に不安に大きくしている。心の置き場をどこに求めれば良いのか分からなくなりつつある。このようなことに対応することも臨床心理学の一部である。

本講義では、臨床心理学の幅広い体系的な総論から各論までを取り扱うが特に、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体として捉える「精神分析療法」を中心に展開する。

必要に応じて具体的な事例や社会現象等を交え、人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れる。受講者自身が今まで以上に、自分について、また、人に対する関心を増し、今後の援助関係に役立てる契機となればと考えている。

【講義計画】

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史
3. 代表的な治療技法
 - ①精神分析療法
 - ②ユングの分析療法
 - ③行動療法
 - ④クライエント中心療法
 - ⑤ゲシュタルト療法
 - ⑥その他
4. 集団療法と家族療法
5. 精神医学的診断
6. アセスメント（心理査定）
7. 臨床心理学的地域援助

【成績評価の方法】

学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。その他レポート有。

【教科書】

特に指定はしない。

【参考文献】

随時、講義の中で参考図書については紹介する。

科 目 名			
倫理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	木 下 昌 巳

【講義概要・学習目標】

この講義では、「生命倫理」にかかわるテーマを中心として取り上げ講義をおこなう。「生命倫理」とは、倫理学のなかでは比較的新しい一分野であり、安楽死・臓器移植・クローン人間といった従来の技術では考えられなかった事柄を倫理的側面から考察する目的で生まれた学問である。クローン人間の製作やヒトゲノムの解析といった最新の技術が提起するさまざまな問題は、日常生活のなかで問われることなく自明のこととしていたさまざまな価値観をあぶり出し、そこでわれわれはあらためて、自らの価値観を問われることになるであろう。本講義では、これらの複雑な問題の論点を整理し、考察の糸口を探っていくことにする。

【講義計画】

前期は、生命倫理にかかわる諸問題をいくつか取り上げる。インフォームド・コンセント、臓器移植、クローン人間、代理出産などのテーマを順に論じていく予定。後期は、生命倫理という枠を超えて、倫理的な問題に関わる現代のトピックをいくつか取り上げ、検討するつもりである。

【成績評価の方法】

学期末試験による。

【教科書】

とくに指定しない。

【参考文献】

加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療 バイオエシックスの練習問題』（PHP新書）

科 目 名			
歴史学—アジア I (旧比較文化論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

海のシルクロードの歴史をあとづける。

海から歴史を見ると同時に史料を読むという、ちょっと欲張った内容である。海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことにも触れる。

地域的には東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場するまで、つまり15世紀までを扱う。この間の、東南アジアを中心とする交易システムの形成とその変化をあとづけることになる。

視覚的な理解のためビデオ資料も用いる。

【講義計画】

1. 海域アジア世界—島の熱帯、モンスーン、海圏
2. 漢とローマ—海のシルクロードの成立するまで
3. モンスーン航海以前の海域東南アジア
4. モンスーン航海の確立—法頭の航海
5. 東南アジア史における5世紀—「インド化」
6. マラッカ海峡交易帝国—シュリーヴィジャヤ交易帝国
7. シャイレンドラ王朝の時代
8. 広州の繁栄—アラブ・ペルシア商人の活躍
9. 中国人海商の進出
10. 宋代のマラッカ海峡—三仏奇
11. 「都会」—ネットワーク構造の変化（12～14世紀）
12. ムラカ王国—極集中の時代—15世紀の自由貿易港？

【成績評価の方法】

時々的小レポートと期末試験を総合して評価する。

【教科書】

深見純生編『資料集 歴史学—アジア I 海のシルクロード史を読む』（生協で販売）

【参考文献】

辛島昇・大村次郷『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000 [桃園A292.09]
 長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989 [桃園A209]
 藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982 [桃園A209]
 家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993 [桃園A225.9]

【備考】

<02～05生>

共通教養科目として、J生対象外

ら
行

科 目 名			
歴史学－イタリア近現代史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	米 山 喜 晟

【講義概要・学習目標】

この授業では、17世紀に歴史のどつぼ（最低の状態）に陥っていたイタリアが、次第に力を取り戻し、リソルジメント時代にイタリア語圏をほぼ統一した後、二度の世界大戦やファシズムなどいろいろな曲折を経て今日に至った過程を講義する。あわせてそれ以前の栄光にも触れないわけにはいかないし、EUに加わった今日のイタリアが抱えるいろいろな問題にも触れておきたい。3年生以上で私のゼミを取っている人はぜひ取っていただきたい。

【講義計画】

全授業の回数を28回とすると、最初の3分の1を過去の2度の栄光、ローマとルネサンスの時代にあてる。続く3分の1をリソルジメントによるイタリア統一とその影響にあてる。残った時間で統一後のイタリア、世界に先駆けて現れたファシズムや世界大戦、そして王国から共和国に生まれ変わったイタリア、さらに第二次共和制とよばれる現在のイタリアが抱える諸問題にあてたい。

【成績評価の方法】

1. まず話を聞いてもらうために出席を重視する。
2. レポートで関心の深い問題を追及していただく。
3. 基本的な事件や人物や年号などをリストアップして提供し、その範囲で期末に試験をおこなう。
4. 以上の3点を総合して評価する。

【教科書】

米山が作製した『イタリア地方文化理解のための歴史年表』を適宜コピーして配布する。

【参考文献】

森田鉄郎・重岡保郎著『イタリア現代史』（山川出版社）
 プロカッチ著、斉藤・豊下訳『イタリア人民の歴史』I・II（未来社）
 藤澤道郎著『物語 イタリアの歴史』I・II（中公新書）

【備考】

<02～05生>
 共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
歴史学－大阪と堺・泉州の地域史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	佐 賀 朝

【講義概要・学習目標】

本講義では、大学が立地する場である大阪と堺・泉州地域の歴史について、前近代（古代～江戸時代）を中心に概説する。

現在の大阪府域とほぼ重なる摂津・河内・和泉の三国は、古代以来、高生産力の先進地域として日本史において重要な位置を占めた。大阪の地は、古代の難波宮、百舌鳥・古市の両古墳群や中世における国際的自治都市・堺、大坂本願寺の寺内町など、その時代ごとの権力と関係し、都市的要素が立地する場所であった。

また、近世統一政権の成立によって大坂城とその城下町が誕生して以後は、巨大城下町とその近郊の経済先進地域として大きく発展し、経済的にも、政治・軍事面でも重要な位置を占めつづけた。

この講義では、各時代における民衆生活にも目を配りながら、大阪地域の歴史的展開を概観し、その特徴を明らかにするとともに、堺と泉州地域にも可能な限り言及したい。

以上の作業から、①わたしたちが日々暮らし、学んでいる場である現代大阪地域の歴史的成り立ちとその問題点について考えるとともに、②地域社会の歴史の流れを、発展と矛盾の両側面から大きく捉えることを通じて、歴史学の基礎的な方法を実践的に学ぶことをめざす。

【講義計画】

おおむね以下の内容に沿って進める。

前史－都市以前の大坂－

大阪の地勢と地理的条件／縄文時代の大坂／弥生時代の大坂／古墳時代の河内・和泉／難波津と四天王寺

都城の形成－難波宮の時代－

難波宮の発見／前期難波宮と後期難波宮／難波京／難波宮の終焉

中世の大坂

渡辺津と四天王寺周辺／自治都市・堺／大坂本願寺と寺内町
 近世の大坂

秀吉の大坂城／徳川期の大坂城と城下町／近世大坂の都市社会／近世の大坂経済と堺・泉州／幕末維新と大坂

【成績評価の方法】

出席・受講態度、小テスト、定期試験などにより総合的に評価する。

【教科書】

特定のものはない。必要な資料は授業のなかで随時、配付する。

【参考文献】

藤本篤ほか『大阪府の歴史』（山川出版社）

『新修大阪市史』第1巻～第9巻（大阪市）

朝尾直弘ほか『堺の歴史』（角川書店）

その他、授業のなかで随時、提示する。

【備考】

<02～05生>
 共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
歴史学－神話と歴史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	梅 山 秀 幸

【講義概要・学習目標】

『古事記』『日本書紀』に書かれた神話および応神天皇以前の記述は、津田左右吉以来、実際の歴史とはなんらかかわりのないものとされ、切り捨てられることを余儀なくされた。天孫降臨の神話も、神武東征の物語も、倭建命の出雲や熊襲や蝦夷への派遣の物語も、あるいは神功皇后の朝鮮半島への出兵の物語も、荒唐無稽として排除される。しかし、そこに大和朝廷および日本の成り立ちが刻印されているのではないか。なぜ、『古事記』『日本書紀』が八世紀の初頭に書かれなければならなかったのかを考えながら、現在の世界の神話学を踏まえつつ、個々の神話や物語の持つ意味を考えていきたい。

【講義計画】

- 1、『古事記』『日本書紀』の神話
- 2、朝鮮半島の神話
- 3、レヴィ＝ストロースの神話学
- 4、デュメジルの神話学
- 5、本居宣長の業績
- 6、津田左右吉の業績
- 7、天孫降臨の神話
- 8、神武東征の物語
- 9、倭建命の征服の旅
- 10、神功皇后と朝鮮半島

【成績評価の方法】

試験による。出席も考慮します。

【教科書】

『古事記』（岩波文庫）

【備考】

<02～05生>

共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
歴史学－日本Ⅰ (旧日本社会史)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	生 瀬 克 己
02	秋学期集中	4	

【講義概要・学習目標】

歴史的な物の見方や考え方の習得をめざすことになる。そこで、具体的な講義においては、それぞれの歴史的場面における「誰が」「何時」「どこで」「何を」「どのように」したか。その結果、時代や社会の何がかわったのかを理解してもらう。

【講義計画】

具体的な講義の展開としては、日本の近代社会の成立過程、つまりは日本資本主義の形成過程を素材にして検討していくことになる。そして、この日本近代の形成過程の研究という一つの課題を前にして、いろいろな専門家によって、意見と理解が異なる理由と意味についても検討していくことにしたい。

【成績評価の方法】

講義のテーマごとに小レポートを書いてもらうなどによって、受講学生の理解と参加を参考にしつつ評価することにした。

【教科書】

特には指定しません。

【参考文献】

必要などきに適宜紹介します。

【備考】

<02～05生>

02クラスのみ、共通教養科目として、J生対象

科 目 名			
歴史と社会 I - ヨーロッパ史の諸問題			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	山 田 義 顕

【講義概要・学習目標】

近代ヨーロッパとは、ヨーロッパの拡大の時代でもあった。しかしこの時代は、必ずしも明るい時代だったとはいえないし、全体をつうじてヨーロッパ諸国による非ヨーロッパ地域の支配が完成する時代でもあった。

この講義では、いくつかのテーマを設定して近代の明るい面と暗い面をとりあげることにするが、学生諸君には、歴史のなかで「近代」のもつ意味を改めて考えてもらいたい。

【講義計画】

主なテーマ

- (1) 時代区分としての「近代」
- (2) 14世紀の黒死病
- (3) 魔女とヨーロッパ
- (4) 宗教改革の諸問題
- (5) 大航海の時代
- (6) 大西洋システムと奴隷貿易
- (7) 産業革命の明暗

【成績評価の方法】

学期末試験（もしくはレポート）と出席点によって総合的に評価する。

【教科書】

講義のたびにプリントを配布する。

【参考文献】

講義中に必要に応じて提示する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
歴史と社会 I - 両大戦間のヨーロッパ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	山 田 義 顕

【講義概要・学習目標】

20世紀は「戦争と平和の世紀」といわれる。とりわけ20世紀の前半には、二度にわたる世界大戦により世界のシステムが大きく変化することになった。これまでヨーロッパを中心として展開されてきた世界のシステムが、根底からくつがえされることになってきたからである。今年、この2つの世界大戦とそのあいだにはさまれた時代（両大戦間期）を中心に、ヨーロッパがどのような変貌をとげていったかを、政治・軍事・文化の面から考察することにする。

【講義計画】

主なテーマ

- (1) 第一次世界大戦の原因と展開
- (2) ヴェルサイユ体制の成立
- (3) ファシズムの諸問題
- (4) ナチズムの台頭
- (5) 1920～30年代の国際関係
- (6) 第二次世界大戦への道

【成績評価の方法】

学期末試験（もしくはレポート）と出席点によって総合的に評価する。

【教科書】

講義のたびにプリントを配布する。

【参考文献】

講義中に必要に応じて提示する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
歴史と社会Ⅲ－スウェーデンの社会づくり			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	伊 藤 正 純
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

いま北欧が、そしてスウェーデンが注目されている。北欧5国はすべて国際競争力がトップクラスで、しかも財政も黒字である。これは、今日の急速な情報化・高齢化・グローバル化のなか、「知識社会」への適合し早く成功したことを意味する。これに対して、日本の保守的・自由主義的政策は「知識社会」への適合に失敗し、財政の赤字を膨らませながら、教育と福祉と医療に対する公共の責任を放棄する方向に進んでいる。スウェーデンの社会のつくり方を見ていると、日本の政策がいかに福祉国家とは対極の格差拡大の社会をつくりだそうとするものであるかがよくわかる。

スウェーデンの新しい社会民主主義的な制度設計（＝政策の組み合わせ）は、1990年代の経済危機を克服し、新たな発展の段階にはいつている。現在のスウェーデンを特徴づけるキャッチフレーズは、地方分権型福祉社会、個性重視社会、環境先進国、IT立国である。本講義では日本についても言及するが、しかし、語るのはスウェーデンの政治、経済、社会と、そこでのスウェーデン人たちの暮らし方である。特に、「雇用」「女性」「家族」「環境」に多くの時間をさきたい。そして、スウェーデン人の感性（生活観）と日本人のそれとの違いを伝えたい。

【講義計画】

1. 生活の安全と知識社会型産業を両立させている高負担高福祉、公正な選挙制度、地方分権型福祉社会（暮らしと政治の距離の近さ）。活躍するNGO。生活規範としての個人主義。自由、平等、連帯、中庸。
2. 雇用：資本と労働との対立的で協調的な関係、組織対組織、生涯学習と職業訓練。障害者福祉。
3. 女性：専業主婦のいる国からいない国へ、職業女性。
4. 家族：結婚－離婚、同居－別居、子ども。
5. 環境：エコロジカルな持続的発展、環境税、ゴミ処理。
6. グローバル化：EU加盟、国連での活動。

【成績評価の方法】

出席をとる。平常点50点、学期末筆記試験50点。

【教科書】

二文字理明・伊藤正純編著『スウェーデンにみる個性重視社会』桜井書店。

【参考文献】

1. 岡沢憲夫・宮本太郎編著『スウェーデン・ハンドブック』早稲田大学出版部、
2. 篠田武司編著『スウェーデンの労働と産業』学文社、
3. 藤井威『スウェーデン・スペシャル』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、
4. 井上誠一『高福祉・高負担国家 スウェーデンの分析』中央法規、
5. 槌田洋『分権型福祉社会と地方自治』桜井書店、
6. 伊藤和良『スウェーデンの分権社会』新評論、
7. 馬場憲男『NGO先進国スウェーデン』明石書店、
8. 岡沢憲夫『ストックホルム ストーリー』早稲田大学出版部。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
レクリエーションワーク (旧レクリエーションワーク)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	横 見 靖 子

【講義概要・学習目標】

キャンプや福祉施設でのレクリエーション活動援助を素材に、高齢者・障害者・児童などの福祉対象者へのレクリエーション活動援助の理論と技術を身につける。

福祉現場に出た時、役立つ人材になれるよう授業では受身で終わらず、自発的に参加し、心と体で覚える授業を目指す。（学外授業にも積極的に参加してほしい。）

【講義計画】

- ①オリエンテーション・アイスブレイク
- ②福祉レクリエーションとは
- ③私たちのレクリエーション実態調査
- ④援助者に必要なホスピタリティトレーニング
- ⑤アイスブレイク企画・発表
- ⑥福祉レクリエーション活動援助の考え方（個人・集団・社会へのアプローチ）
- ⑦福祉レクリエーション活動援助プロセス
- ⑧レクリエーション財のアレンジ
- ⑨レクリエーション企画・発表・評価
- ⑩レクリエーションを安全に行うために
- ⑪レクリエーションとセラピー
- ⑫福祉レクリエーションの歴史及び法体系と行政施策
- ⑬これからの福祉レクリエーション
- ⑭学外授業：野外活動・セミナー・ボランティア活動など

【成績評価の方法】

平常点（出席・受講態度）とレポート（小テスト・ノート）

【教科書】

石田易司『アイスブレイク』エルピス社、2001
 高齢者レクリエーション研究会『高齢者レクリエーション指導Ⅱ ディセンターのプログラム』朝日新聞厚生文化事業団
 その他必要なプリントは配布する。各自オリジナルのファイル（ノート）を作成すること。

【参考文献】

財団法人日本レクリエーション協会監修『福祉レクリエーション 総論』中央法規出版、2000
 石田易司『CAMPING FOR ALL』エルピス社、2004
 太宰由紀子『ゆっくりゆっくり笑顔になりたい』スキージャーナル、2003
 日本ダイバーショナルセラピー協会編『全人ケアの実践』朱鷺書房、2004

科 目 名			
連結会計論 (旧国際会計論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	柴 理梨亜

【講義概要・学習目標】

単独企業の財務諸表に代わってグループ企業の連結財務諸表が主役になった今、本講義ではその連結財務諸表について学びます。例えば、はなぜそのような連結財務諸表が必要なのか、その制度とはなにを目的としているのか、その財務諸表の構成は、などを理解するのが目的である。本講義を受講するにあたって、簿記と財務諸表の基礎知識が不可欠である。

【講義計画】

1. 証券取引法に基づく情報開示制度
2. 連結決算制度
3. 連結貸借対照表
4. 連結損益計算書
5. 連結剰余金計算書
6. 連結キャッシュ・フロー計算書
7. 連結財務諸表の注記事項
8. 連結の範囲と基準

【成績評価の方法】

出席、平常点と期末テストを総合的に評価する

【教科書】

新日本監査法人（著）「図解早わかり 連結決算書入門」、BSIエデュケーション

練習問題も必要に応じてプリントして配布する

科 目 名			
老人福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	坪 山 孝

【講義概要・学習目標】

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法を含む）とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。
- 6 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 老人のための地域及び住環境の歳暮と福祉用具について理解させる。
- 8 老人に対する相談援助活動について理解させる。

【講義計画】

- 1 高齢社会と老人
 - 1) 老化と老人
 - 2) 家族と老人
 - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
 - 1) 老人福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
 - 1) 老人福祉法
 - 2) 介護保険法
 - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 6 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 7 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 8 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備（バリアフリー）
 - 2) 福祉用具
- 9 老人に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動尾をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【成績評価の方法】

授業時に課サレポート及び試験による

【教科書】

高齢者福祉 第一法規出版

【参考文献】

老人福祉論 社会福祉学習双書 全国社会福祉協議会 2005年
国民の福祉の動向 厚生統計協会

他にも授業中に適宜紹介する

科 目 名			
労働経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	大 西 祥 恵

【講義概要・学習目標】

皆さんのなかには、卒業後、何らかの仕事につこうと考えている人が多いかもしれませんが、そうではなくても、労働に関する事柄がどのような実態を有しているのかについて知っておくことは重要ではないでしょうか。

本講義では、「企業社会」と呼ばれる日本社会のなかで、生産システムの特徴としてどのようなものが挙げられるのか、民間企業労働者はどのような状況にあるのか、性別や国籍によって就業状況はどのようになっているのかなどについて検討したうえで、最終的には、日本の福祉国家体制にも言及していこうと考えています。

【講義計画】

春学期は、これまで労働力の中でメインとみなされてきた男性正社員層の実態を中心に勉強していきます。

秋学期は、労働者を取り巻く状況が、性別や国籍などの切り口からみると、どのようになっているのかという点を勉強し、最終的には福祉国家としての日本の現状を検討します。

【成績評価の方法】

試験、授業中に行う小テスト、および出席態度。

【教科書】

戸塚秀夫・徳永重良編著『現代日本の労働問題<増補版>』ミネルヴァ書房、2001年（3500円）。

【参考文献】

講義中に指示することがあります。

【備考】

SW生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

科 目 名			
労働法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	上 田 達 子

【講義概要・学習目標】

雇用者が全就業者の8割をしめる雇用社会である日本において、雇用社会の法的ルール（労働法）を知ることは必要不可欠である。労働法は、（1）個々の労働者と使用者との労働契約（雇用関係）を規律する雇用関係法、（2）職業紹介、能力開発：公的な雇用保障等を内容とする労働市場法（雇用政策法）、（3）労働組合と使用者との団体的関係に関する労使関係法の3領域に分かれる。

本講義では、社会経済のグローバル化、少子高齢化等に伴う日本型雇用システム（長期雇用、年功序列型賃金、企業別組合）の変化、働き方のルール（労働法）とその変容について解説する。

【講義計画】

- 第1回 雇用社会とその変化
- 第2回 日本の雇用システムと法
- 第3回 労働契約の成立
- 第4回 労働契約の基本的内容
- 第5回 賃金（1）
- 第6回 賃金（2）
- 第7回 労働時間（1）
- 第8回 労働時間（2）
- 第9回 年次有給休暇
- 第10回 雇用平等
- 第11回 労働契約の終了（1）
- 第12回 労働契約の終了（2）
- 第13回 就業形態の多様化と法（1）
- 第14回 就業形態の多様化と法（2）
- 第15回 労働市場と法（1）
- 第16回 労働市場と法（2）
- 第17回 安全衛生と労働災害補償
- 第18回 人事異動・懲戒
- 第19回 企業再編
- 第20回 労働組合・団体交渉
- 第21回 労働協約
- 第22回 組合活動・争議行為
- 第23回 不当労働行為
- 第24回 労使紛争の解決

【成績評価の方法】

学期末の試験により評価する。

【教科書】

安枝英紳・西村健一郎『労働法』最新版（有斐閣）

【参考文献】

- ・小寫典明・島田陽一・浜田富士郎編『目で見る労働法教材』最新版（有斐閣）
- ・菅野和夫・西谷敏・荒木尚志編『労働判例百選』第7版（有斐閣、2002年）
- ・上田道夫『労働法概説Ⅰ－雇用関係法－』（弘文堂、2004年）
- ・菅野和夫『労働法』最新版（弘文堂）
- ・山川隆一『雇用関係法』最新版（新世社）
- ・下井隆史『労働基準法』最新版（有斐閣）
- ・小型のものでよいから、六法必携

【備考】

<02・03生>
共通自由科目として、J生対象外

科 目 名			
ロシア語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	国 松 夏 紀

【講義概要・学習目標】

これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正確には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。英語より7文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習して覚えることから始めます。そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ感覚的にロシア語に慣れることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習しましょう。

【講義計画】

教科書は全部で10課あります。冒頭の「文字とその読み方」を1課分とすると11課です。単純に計算すると、2回の講義につき、1課仕上げると、春学期と秋学期で楽に1冊修了することになるはずですが、しかし、なかなか計算通りいかないのが、教室での語学学習です。適度に緩急をつけながら、重要ところはじっくりと、とばせるところはとばしていきます。一つだけ、予め注意しておきたいのは、教科書には書き込みをしないこと。A5版で余白の多くはない教科書なのですが、つい「読みカナ」をふったり、練習問題の解答を書き込んだりしたくなるのですが、それはノートにすること。教科書をきれいなままにしておき、常に「練習」できるようにしておくことも、意外と語学上達の早道なのです。

【成績評価の方法】

出席を何よりも重視します。とにかく、たと予習が間に合わなくともめげずに出てきてロシア語に触れること。その上で、春学期末と秋学期末の試験で総合的に評価します。

【教科書】

諫早勇一・服部文昭・大平陽一著『セメスターのロシア語』白水社刊

【参考文献】

辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。

科 目 名			
ロシア語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	杉 野 ゆ り

【講義概要・学習目標】

ロシア語は、ロシア連邦に住む一億五千万人のみならず、CISの国々でも異なる民族間のコミュニケーションの道具として使用されています。ロシア極東の町ウラジオストクは、大阪から飛行機で約2時間です。日本人にとってまだまだ未知のこの隣国を知るために、ロシア語の勉強を始めませんか。チャレンジ精神のある学生の参加を求めます。英文字とはちがうロシア文字の形を楽しみながら、積極的に授業に参加し、根気強くついてきてください。そうすれば、ロシア語が、あなたの一生の友人になるかも分かりません。

【講義計画】

教科書は18課からなります。前期で10課、後期で8課進む予定です。教科書に書かれているロシア語の表現と文章を、繰り返し聞いて口頭練習してください（CDが付いています）。正確に理解する努力、書く練習も怠りなくするように。

【成績評価の方法】

平常点（出席回数、小テスト）と前後期の定期試験で評価します。

【教科書】

中島由美、黒田龍之介、柳町裕子著『ロシア語へのパスポート』（白水社）

【参考文献】

露和辞典必携

科 目 名			
ロシア語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	国 松 夏 紀

【講義概要・学習目標】

「ロシア語Ⅰa・Ⅰb」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の文章を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、まだ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し、補いながら、こまめに辞書を引きつつ読んでいきましょう。それと同時に、教科書添付のCDなどで、音を聞き、自分も精一杯声を出して滑らかに読めるように練習してください。地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けることでしょう。

【講義計画】

教科書を開くと「まえがき」に次のように書かれています。「テキストを親しみやすいものにするため、かわいいハムスターとその飼い主家族の物語を展開させ、イラストもたくさん入れました。ハムスターのフォマー君や熊のミーシカ君と一緒にロシア語の世界に遊んでみてください」と。せっかくですから、できるだけ楽しく授業を進めるつもりです。全13課ですから、2回の講義で1課のペースということになります。

【成績評価の方法】

必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、とにかく教室に出てくること。その「平常点」と、春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。

【教科書】

諫早勇一・服部文昭・大平陽一著『セメスターのロシア語読本』白水刊

【参考文献】

授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

科 目 名			
ロシア語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	杉 野 ゆ り

【講義概要・学習目標】

初級文法に基づいて、ロシア語を聞き話す能力を養い、コミュニケーションの力を習得します。万難を排して授業に出席して、ロシア語を積極的に使しましょう。イラストや写真を使って自己紹介、買い物、旅行など場面を想定し、会話を楽しみたいと思いません。

【講義計画】

教科書の通りに進みます。教科書は「文字と表現」(1)～(7)とテーマ別の各課(全17課)からなります。

【成績評価の方法】

平常点(出席点と小テスト)及び定期試験(筆記及びオーラル)で評価します。

【教科書】

米重文樹著『話すロシア語入門』(白水社)

【参考文献】

露和辞典必携

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ	クラス	担当者	時間割 コード	ページ
01	岩男久仁子	52373	353	05	小柳 伸顕	32379	354	09	三浦 俊介	14371	356
02	岩男久仁子	53373	353	06	生瀬 克己	42378	355	10	村田 佳隆	42379	357
03	大野 順子	32378	353	07	原山 煌	44371	355	11	柳父 章	32380	357
04	木下 昌巳	54372	354	08	深澤 徹	51371	356				

※ 法学部生の対象クラスは、01・04・06・11 クラス

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期 通期	4 4	岩 男 久仁子

【講義概要・学習目標】

文章で、自分の意見を明確に表現できるようになる。それは、読み手に理解されるような文章を書けるようになることである。また、人前での「発表」をする練習も取り入れる。

時間中は手書きで原稿を書くが、それを自ら添削し、書き直して提出する時にはパソコンのワープロソフトで作成したものを、提出する。

【講義計画】

<春学期>

自己紹介、履歴書など、自分の事柄を中心としたテーマで、毎回800～1000字程度の文章を書く。テーマは授業時のはじめに伝える。

<秋学期>

一つのテーマを決めて「論文」を仕上げる。「卒業論文」を書くために必要なスキルを身につける。参考文献の探し方、注釈の付け方など。

【成績評価の方法】

筆記による試験は行わない。出席重視。遅刻厳禁（欠席とみなす）。文章の評価は個々の努力により評価する。

【教科書】

・必要時にプリントを配布。

- ・国語辞典（電子辞書可、辞書代わりの携帯電話は不可）
- ・論述作文用の原稿用紙

【参考文献】

授業時に紹介する。

【備考】

02クラスは、J生対象外

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

受講生各自が、現代社会が抱えるさまざまな社会問題（特に教育・環境・人権・青少年問題などに関連したテーマに限定する）を取り上げ、それについてアクションリサーチ（調査）を行い、最終的に論文として仕上げる。基本的なアクションリサーチの手法、調査論文の書き方を身に付けることを主な目標とする。

【講義計画】

前期（春学期）

基本的な論文（調査論文）の書き方、論文構成、及び情報収集／参考文献の検索方法等を中心に、実践を交え、実際に出版されている論文等を参考にしながら、調査論文作成の“いろは”について学ぶ。

後期（秋学期）

各自設定したテーマ（春学期終了時に決定）に沿って、論文作成に向けて準備を進める。調査論文という性質上、調査方法（インタビューの仕方、アンケート用紙の作り方）や調査結果の分析方法、考察の書き方などを指導しながら、それぞれ論文を完成させる。

【成績評価の方法】

1. 出席（遅刻は欠席扱い）
2. 毎時の課題提出（前期はスモールリサーチエッセーを提出予定）
3. 最終的な調査論文の提出
以上により、総合的に評価する。

【教科書】

随時、紹介する。
国語辞典を準備する。

【参考文献】

- 「レポート・論文の書き方入門（改訂版）」慶應義塾大学出版会
「大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方」
吉田健正 著
「論文の書き方マニュアル ステップ式リサーチ戦略のすすめ」
花井等・若松篤 著
「文献調査法-調査・レポート・論文作成必携-」毛利和弘 著
「Doing Your Research Project」Judith Bell 著

【備考】

J生対象外

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4	木 下 昌 巳

【講義概要・学習目標】

文章の大きな目的は、自分の考えていることを文章によって自分以外の人に伝えることである、せっかくよい考えをもっている、ただ漫然と書いてあつたら、それはなかなか読み手には伝わらないだろう。たとえば大学の授業の課題として提出するレポートを書くときに、どれほど綿密に資料を調べたとしても、どれほど独創的な考えを持っていたとしても、読み手に理解されるような仕方でも適切に整理され論理的に書かれていなければ、それはけっしてよいレポートにはなりえない。文章にはしかるべき書き方がある。この授業では、文章を実際に書くことを中心として、広い意味で文章を書く技術を身につけてもらうことを目指す。それに加えて、図書館の使い方、資料の集め方、ワープロソフトの操作法の練習なども授業のなかに取り入れる。

【講義計画】

ひと月に1本のペースを目標として、年間に6本程度書いてもらう予定。

【成績評価の方法】

提出された作文による。

【教科書】

とくに指定しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4	小 柳 伸 顕

【講義概要・学習目標】

他人とのコミュニケーションにはいろいろな手段があります。身体表現、話すこと、絵をかくこと、音にすることなどを挙げることができます。しかし、文字（文章）にすることは基本的な手段です。文字（文章）を通して自分の思い、意見を出来る限り正確に伝えるためには、日常的に書く訓練が必要です。授業では、テーマに沿って作品を書き、その目標に近づきたいと願っています。そのため提出された作品については、毎回、添削し、意見を書いて返却します。

【講義計画】

1. 自分を紹介する、他人を紹介する文章を書く。
2. 資料（新聞記事、エッセイ、小論文、ビデオ）について自分の意見をまとめてみる。
3. 出されたテーマについて、他人と話し合ってみる。
4. 夏休み、冬休みには、各1冊の書物を選び、長い文章を書いてみる（休み前に提示）。
5. 1年間うけた授業についてまとめてみる。

※作品添削のうえ返します。

【成績評価の方法】

1. 出席
 2. 作品の提出
- の二つにより評価します。

【教科書】

なし。

【備考】

J生対象外

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4	生 瀬 克 己

【講義概要・学習目標】

この科目は、大学における学習・研究に必要な論理的で明快な文章を書くための訓練が目的である。具体的には、論述式の答案やレポートを作成するための文章形式の習得を目的にしている。同時に、論述形式の文章を実践的に作成してもらうことも重要な目的である。

【講義計画】

<春学期>いろいろな文章になれることから始めて、そのような文章の作成に習熟することをめざす。

<秋学期>各講義ごとに特定のテーマを設定して、そのテーマにそった800-1000字程度の小論文を作成してもらうことで、論理的な文章の作成に習熟してもらう。

【成績評価の方法】

各回ごとの参加態度の熱心さや、誠実な参加態度が求められる。当然、出席率の高さを要求することになる。それらを前提にした「平常点重視」となる。

【教科書】

特には指定しません。

【参考文献】

必要なときに、適宜紹介します。

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4	原 山 煌

【講義概要・学習目標】

大学生に求められる文章作成能力を高めることを目的とする。授業時のノート・テイク、レポート作製の常識、ゼミ論文など本格的な論文の作り方などについて、トレーニングを行なう。課題をしばしば出すので、必ず出席することが求められる。

【講義計画】

授業中の文章作成、課題に応じて作る文章、レポートを作るための読書の仕方などのテーマで、できるだけ多くの文章を作る。インで

【成績評価の方法】

出席重視、課題提出の状況、そしてもちろん文章の出来などによって総合的に評価する。

【参考文献】

清水義範『大人のための文章教室』講談社現代新書 講談社。

【備考】

J生対象外

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

春学期では、ワープロは一切使わない。一字一字刻み込むようにして文章を作って行く、そうした地道な作業に力点を置く。ワープロは便利で簡便なツールであり、これによって文章の作成は極めて容易になった。私自身もこれを簡便な道具として日々常用している。しかし簡便な分、それに反比例してそこから生み出される文章は軽くて薄っぺらなものになってしまう危険性が常につきまとう。ワープロ使用の文章作成は行わず、手書きの実践を繰り返すことに徹しようと思う。言葉を使い捨てにせず、一つ一つ大切に使うことで自己との対話を試みる、そうした場として本科目を設定したい。

【講義計画】

春学期は、身近な題材から初めて、次第に自己の周囲に広がる社会や政治、経済や国際問題へと題材を広げ、自由に880字程度の文章を書いてもらう。

秋学期は、グループに分けてプレゼンテーション形式で講義を進める。各グループごとにテーマを決め、情報集数して発表してもらい、意見交換の上、1200字程度の小論文形式の文章を書く。

【成績評価の方法】

試験もレポートもない代わりに、出席を最も重視する。各人の評価はどれだけ作業（文章を書いたり口頭発表をしたり）に積極的に取り組んだかで、総合的に判断する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

斉藤美奈子『文章読本さんへ』（講談社・2000）

【備考】

J生対象外

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4	三 浦 俊 介

【講義概要・学習目標】

三浦の「論述作文」はレポート・論文の書き方を修得することを学習目標としている。学生諸君は、前期のうちにレポートの書き方の基本を学習し、前期レポートを書く。後期は前期レポートを訂正・増補して、修了論文を書く。「論述作文」で学ぶことはゼミの論文執筆や成績アップの問題だけでなく、論述式のテスト全般や就職試験などにもきつと役立つだろう。

本学以外に「論述作文」という講座を、少人数制度で開講している大学のことを聞いたことがない。「論述作文」は本学独自の講座である。三浦は、この、他に例のない、すばらしい講座の恵恩にあずからないのは損だと思う。

担当が三浦である必要はない、とにかくできるだけ多くの学生に「論述作文」を受講してもらいたい。

【講義計画】

講義は以下の内容で進める予定である。

- 1、ガイダンス（年間計画・自己紹介など）
 - 2、原稿用紙の使い方（縦書き・横書き）
 - 3、ワープロソフトの使用
 - 4、レポート・論文の手順（ビデオを見て）
 - 5、レポート・論文の構成（起承転結・双括型など）
 - 6、事実と意見とを混同するな
 - 7、短文のすずめ
 - 8、逆茂木型の文章を回避せよ
 - 9、段落意識を持つ
 - 10、重要なことを先に書くことの重要性
 - 11、引用と要約
 - 12、補注と参考文献
 - 13、レポート・論文の仕上げ
- 毎回何らかの作業を課す予定である。

【成績評価の方法】

- (1) 年度末の修了論文を重視する。修了論文を出さないで不可。
- (2) 毎回出席を取り、評価の参考にする。欠席過多者は不可。
- (3) 提出物も重視する。

【教科書】

特に定めない。随時プリントを配布する。

【参考文献】

木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房
河合正義『[新版] 見てわかる〈図解〉文章の書き方』

実務教育出版

橋内武『パラグラフ・ライティング入門』研究社出版

清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書）岩波書店

辰濃 和男『文章の書き方』（岩波新書）岩波書店

小河原 誠『読み書きの技法』（ちくま新書）筑摩書房

古郡 廷治『文章添削トレーニング』（ちくま新書）筑摩書房

その他多数。随時紹介する。

【備考】

J生対象外

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4	村 田 佳 隆

【講義概要・学習目標】

論理的で明快な文章を書くための訓練をするが授業の目標である。実際に文章を書いてみて、その過程を振り返り、自分の思考や表現を鍛え直す。さらにそれを次に生かしていく。訓練はこのプロセスの繰り返しである。たくさんの文章、たくさんの言葉をインプットすること、自分の頭の中でもう一度考え直してみること、他人にわかるような形に作り直すこと、以上のことを心がけて欲しい。

【講義計画】

- ・さまざまな種類の文章に実際に当たってみる。
- ・自分自身の意見を短文で表現できるようにする。
- ・最終的な「作品」を仕上げる。
- ・長期休暇には「論文」を課す。

【成績評価の方法】

出席と提出された作品による平常評価。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

授業中に指示する。

【備考】

J生対象外

科 目 名			
論述作文 (旧論述作文〔2〕)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4	柳 父 章

【講義概要・学習目標】

学生諸君の肉体はもう大人だが、精神はいま形成途中である。大学生活は若者の精神形成にもっとも大事な時期であり、文章を書くことは精神形成の重要な手がかりである。

このことを踏まえて、毎時間に取り上げるテーマであるが、始めは自己紹介の文、次は友達紹介の文などから、自分の体験、とくに内面精神の形成についてのテーマ、というように、身近な文から始まって、次第に、社会問題、政治問題、思想的問題など、抽象的なテーマについて書いていく。

論文の勉強であるから、自分の考えを、明快に、論理的に表現できるように教えたい。

終業論文は、ワープロで打ってきてもらって、一冊の論文集にまとめて、クラス全員に渡す。それで、ワープロをできるようにしておくこと。

【講義計画】

毎時間、まず担当者がテーマを出し、そのテーマについて説明し、次に参加者学生に、400字詰め原稿用紙で2枚程度書いてもらい、それを提出させ、採点する。次の時間に出来のいい論文を読み上げたり、全体の出来を批評したりする。

論文用紙は生協で販売している「コクヨの800字詰め原稿用紙」を購入して、始めの時間、そして以後毎時間の授業に持ってくる

こと。そして夏休み後、この授業の終業論文を書いてもらう。時間をかけて、自分が大切だと思うテーマをじっくり完成する予定である。

【成績評価の方法】

毎時間提出してもらった論文と、後期の終わりに完成する終業論文との総合結果で評価する。別に試験はおこなわない。

【教科書】

とくにない。

【参考文献】

私じんの作文方法についての著書などを、随時取り上げるが、そのテキストは、その時々で紹介する。

科 目 名

論理学

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	山 川 偉 也

【講義概要・学習目標】

論理的に物事を考えることの訓練、これは、現代のグローバル化された時代にあって最も重視されている事柄である。この講義では、論理的に推論することの訓練を徹底的に行いたい。考えることの嫌いな人にとっては少しばかり苦痛かもしれないが、努力する人には楽しい授業になる、と思う。

【講義計画】

筋道を立てて考えるとは、どういうことであるかの解説から始め、次第に命題論理の基本の習得、その簡単な練習問題を解く訓練へと入っていき、キャロルの格子図を用いた命題論理や述語論理の訓練の領域へと進んでいくことにする。

【成績評価の方法】

たえず小テストを行う。その結果を重視するから、常時出席していなければならない。であるから、出席率も重視する。

【教科書】

山川・清水共著『論理開眼』世界思想社

【備考】

<02・03生>

共通自由科目として、J生は対象外